

高浜市第3次地域福祉計画

高浜市しあわせづくり計画

平成28年度～平成33年度

しあわせってなんだろう？

だれかに感謝されること

**LET'S
ACTION!**



高浜市

目 次

第1章 高浜市しあわせづくり計画の策定にあたって … 1

- I. しあわせって何？（しあわせの定義）
- II. 高浜市しあわせづくり計画とは
- III. 高浜市しあわせづくり計画策定の目的
- IV. 高浜市しあわせづくり計画の基本的な考え方
- V. 高浜市しあわせづくり計画と他の計画との関連性
- VI. 高浜市しあわせづくり計画の期間

第2章 しあわせを感じるためにみんなでできること … 8

- I. みんながそれぞれの役割を発揮し、協力して取り組むまちづくり【協働】
- II. 生涯を通じて学び合い、ゆたかな未来を育むまちづくり【文化、教育、生涯学習】
- III. まちの資源を活かした、活力ある、安全・安心なまちづくり【産業、環境、防犯、防災】
- IV. お互いに助け合いながら、いつまでもその人らしく生きがいを持って暮らせるまちづくり【福祉】

第3章 行政の役割と応援すること … 30

- I. 行政の役割とは
- II. 行政が応援すること
 - 1) 「ヒト」を応援します
 - 2) 「ココロ」で支える風土を育みます
 - 3) 「コト」を発信します

第4章 社会福祉協議会の役割と応援すること … 32

- I. 高浜市社会福祉協議会の理念
- II. 高浜市社会福祉協議会の取り組み
 - 1) 日常生活における困りごと対応力を強化します
 - 2) 高齢者・障がい者・子どもを含む包括的な支援をします
 - 3) 本計画の着実な実施に向けた計画を策定します

- I. 「自分たちができること」が、実践されるように…
- II. 計画の推進にあたって
 - 1) 「しあわせ度」で効果を測定
 - 2) 「自分ができること」の実践・創出
 - 3) 実践する方法の発信
- III. 「自分ができること」を楽しく実践するために…（活動リスト）

- I. 高浜市地域福祉計画策定委員会 委員名簿
- II. 計画策定の軌跡
- III. 計画の策定体制
- IV. 第2次高浜市地域福祉計画を振り返って
- V. しあわせづくり市民ヒアリングのまとめ
- VI. しあわせづくりワークショップからのアイデア・意見
- VII. 地域福祉計画策定委員会からのアイデア・意見
- VIII. すでに取り組まれている自分たちのできること（地域活動紹介）
- IX. データで見る高浜市

第1章 高浜市しあわせづくり計画の策定にあたって

I. しあわせって何？（しあわせの定義）

「しあわせ」を感じるモノサシは、個人ごとに違うかもしれません。では、高浜市に暮らす皆さんが「しあわせ」を感じる時はどんな時、どんな気持ちになる時なのでしょう。

市民の皆さんの声（しあわせづくりワークショップより）

おいしいご飯が食べられること

当たり前のことが当たり前に行えること

人に必要とされ、感謝されること

家族ができたとき

元気で生きていられること

笑顔になれること

家族がいること・家族でいられること

自分のできることを他人と共有して楽しむこと

いろいろな人とツナガルこと

“みんなでわいわいおしゃべりすることは楽しい”

生きていること

仕事にやりがいを持っていること

家族のしあわせが自分のしあわせ

自分のできることをみんなで活かすこと

他の人に知識を伝えられること

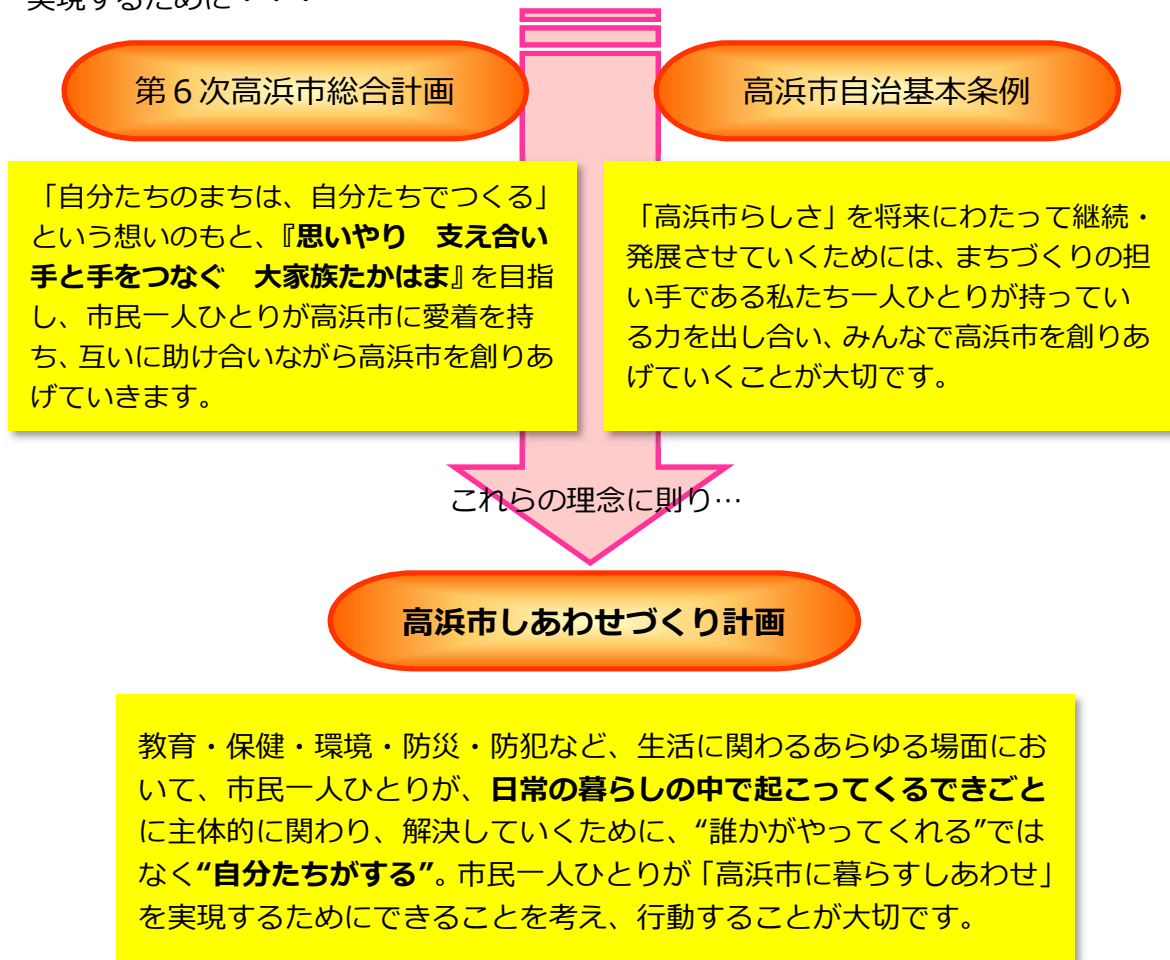
自分の祖母と話すこと

Ⅱ. 高浜市しあわせづくり計画とは

住み慣れた地域で行政と住民が一体となって支え合う、総合的な地域福祉に取り組む計画である「地域福祉計画」の実践が、全ての市民が「しあわせ」を感じ、「いつまでも住み続けたい！」と思えるまちの実現につながると考え、高浜市では「第3次高浜市地域福祉計画」を『高浜市しあわせづくり計画』と呼称します。

Ⅲ. 高浜市しあわせづくり計画策定の目的

全ての市民が「しあわせ」を感じ、「いつまでも住み続けたい！」と思える高浜市を実現するために・・・



市民一人ひとりや地域、企業、行政、社会福祉協議会などが1つの家族のように、みんなで協力・役割分担してできることを盛り込んだガイドブックとして、また、行政や社会福祉協議会に必要とされる支援・応援の姿を示す指針として策定をしていきます。

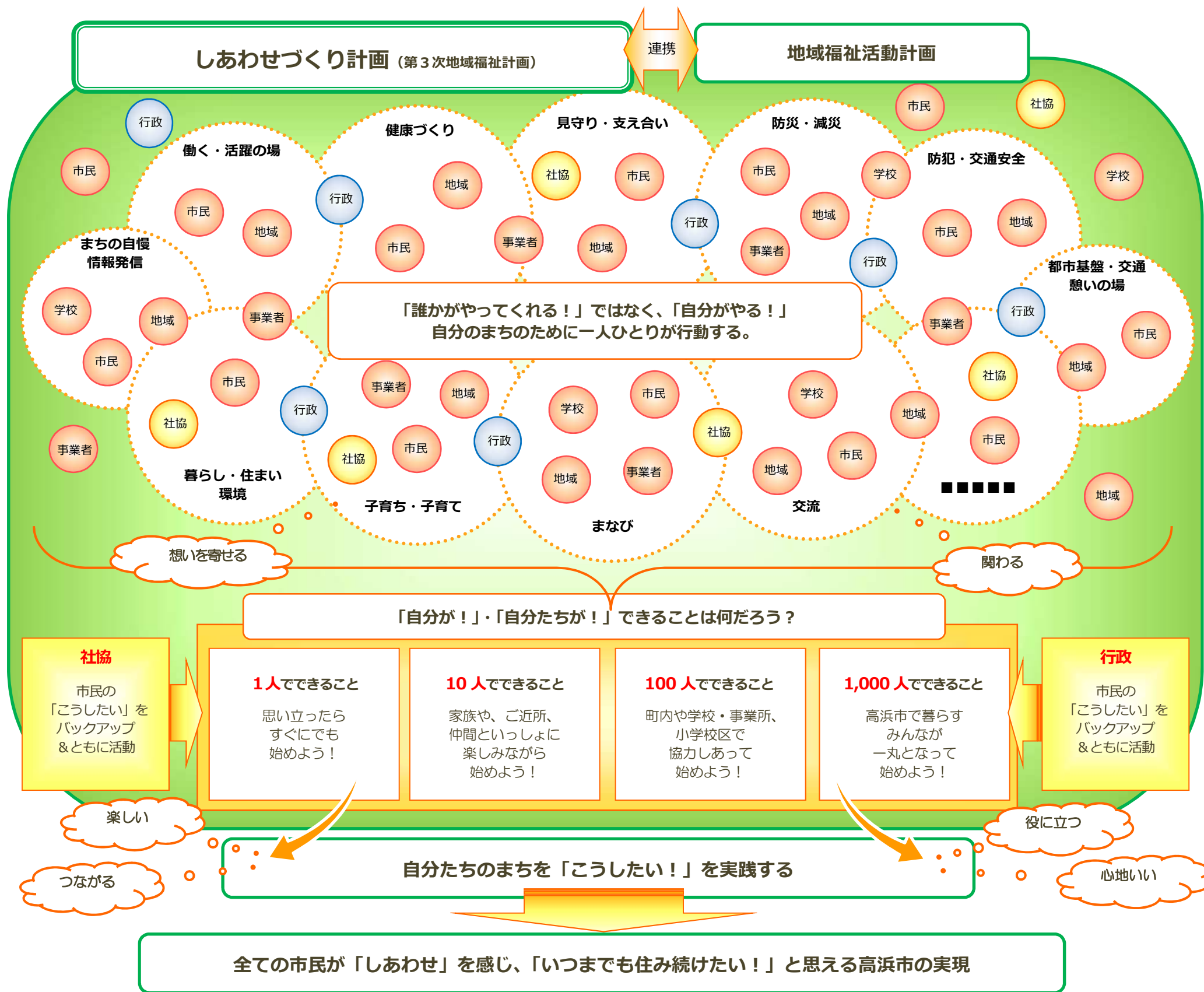
IV. 高浜市しあわせづくり計画の基本的な考え方

高浜市に暮らす誰もが、日常の暮らしの中で起こってくるできごとを「他人ごと」として目をそらすのではなく、家族のことにように「自分ごと」として考え、それぞれの地域で誰もがその人らしい安心で充実した生活を送りつづけることができるよう、市民一人ひとりが「主役」となるような地域福祉を目指し、地域福祉の推進に向けた基本方針を次のように設定します。

《計画の基本方針》

☆従来の地域福祉から、防災や防犯、教育、まちづくり等の分野との連携を深めた地域福祉へ

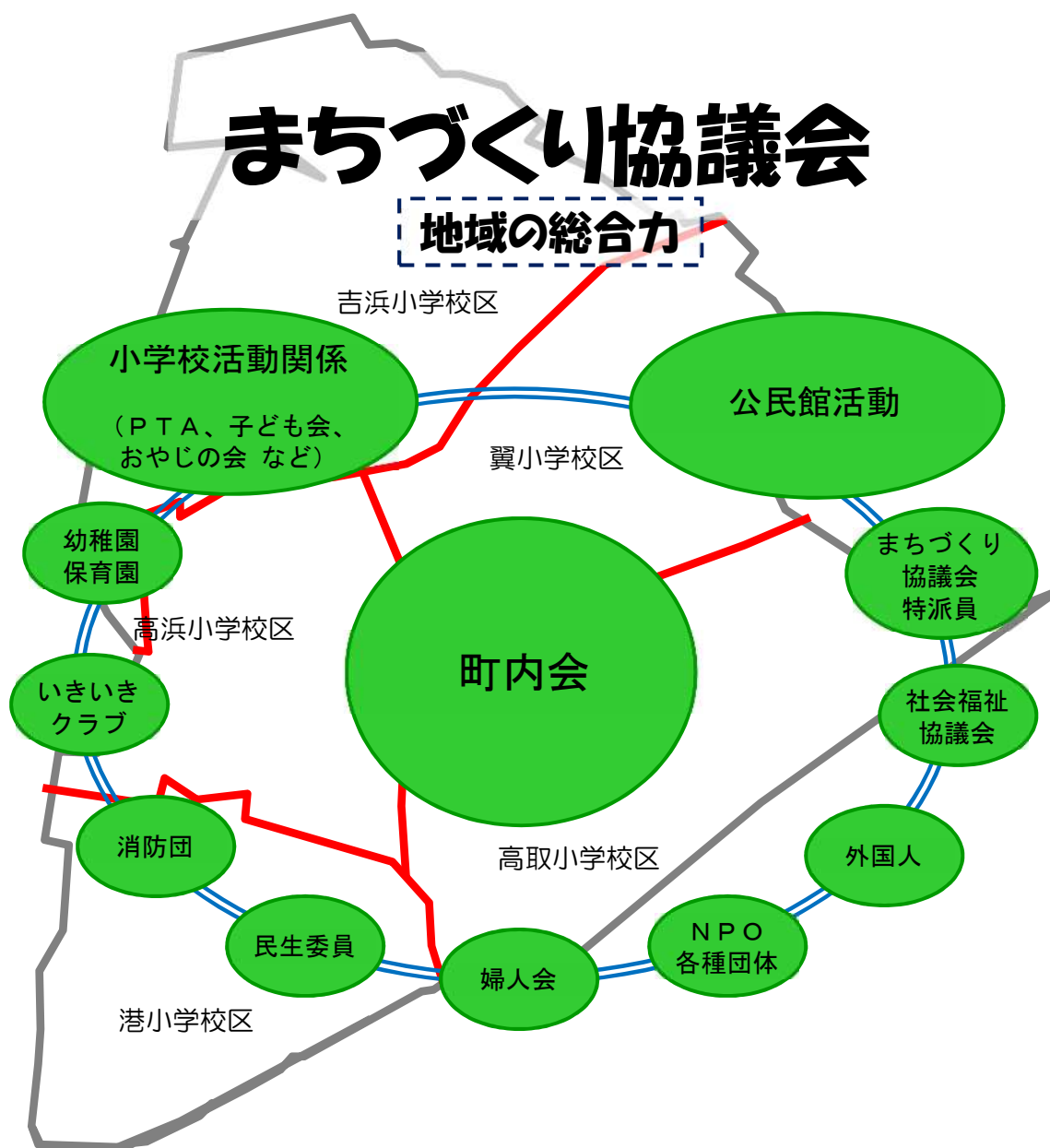
今までの地域福祉は、地域で支援される人と支援する人という関係の中で、福祉分野に限定した枠組みの中で体制をつくる意識がありました。しかし、地域では個々人の生活課題が多様化してきており、従来の福祉サービスの枠にはまりきらないことが増えてきています。そうした中、市民一人ひとりが時には支えられ、時には支える立場で関わっていくことが求められています。全ての地域住民が日々安心して暮らせるよう、防災や防犯、教育、まちづくり等の分野と連携し、住んでいる地域の中で福祉活動がうまく機能する仕組みづくりを進めます。



☆市民・地域が主役の支え合いの促進

高浜市には、5つの小学校区にコミュニティ組織「まちづくり協議会」があり、町内会を核とし、各種団体が「まちづくり協議会」という場を中心に手と手を取り合って連携し、それぞれが暮らす地域の特性を踏まえ、地域の課題解決や個性を活かしたまちづくりを展開しています。

今後一層、地域活動に参加する人を増やし、市民全体で地域を支え合う仕組みを整えていく必要があります。さらには、支援を必要とする人と支援する人を一面的にとらえず、それぞれの人が“できること”を見出し、みんなでお互いに支え合うといった意識の醸成を図ります。



V. 高浜市しあわせづくり計画と他の計画との関連性

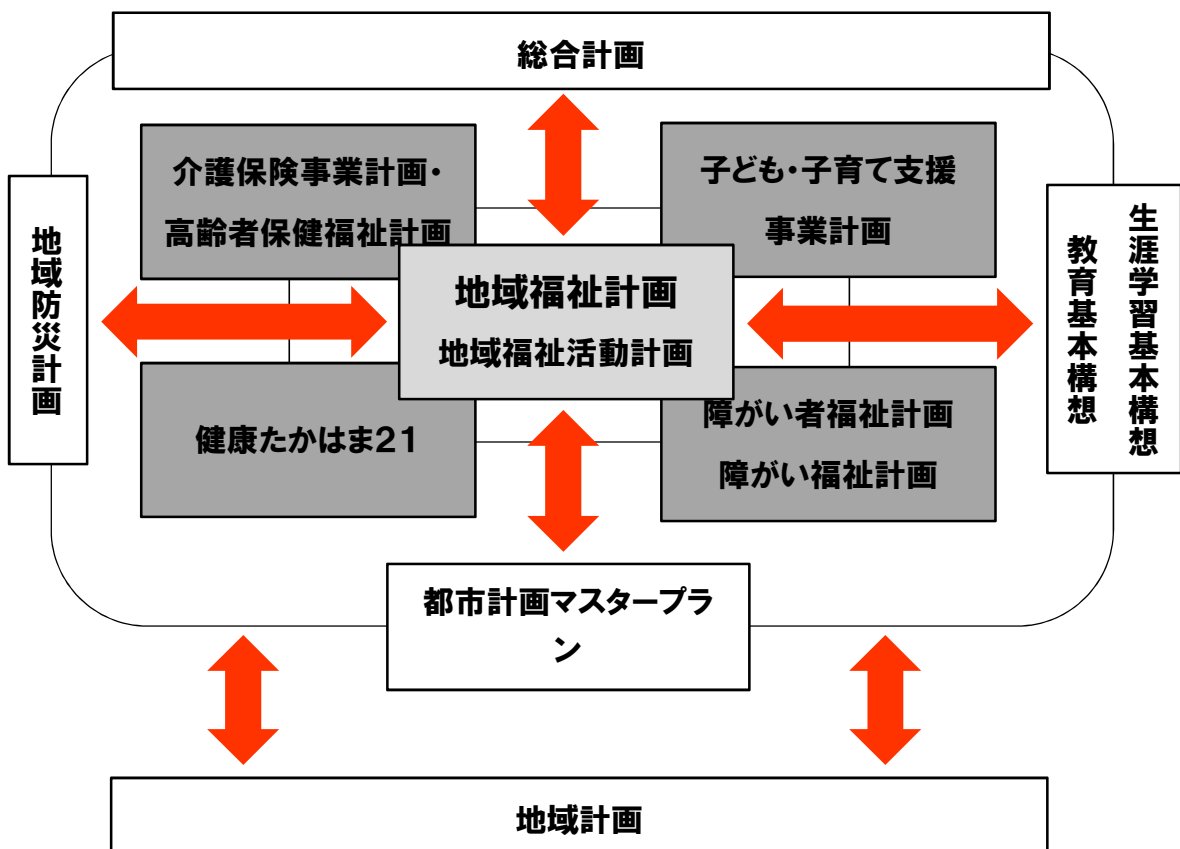
① 地域福祉計画策定の法的な位置づけ

地域福祉計画は、社会福祉法第 107 条において、行政が住民とともに、地域の生活課題を明らかにし、また解決していく体制を整備することを目的として策定するものと定められています。

② 先行計画との関連性

高浜市では、『高浜市しあわせづくり計画』の策定に先駆け、市民の生活や健康、福祉、まちづくりなどに関するさまざまな計画を市民とともに検討・策定してきました。そして、それぞれの分野から市民の“しあわせ”を高めるために、これらの計画に沿った事業が展開されています。

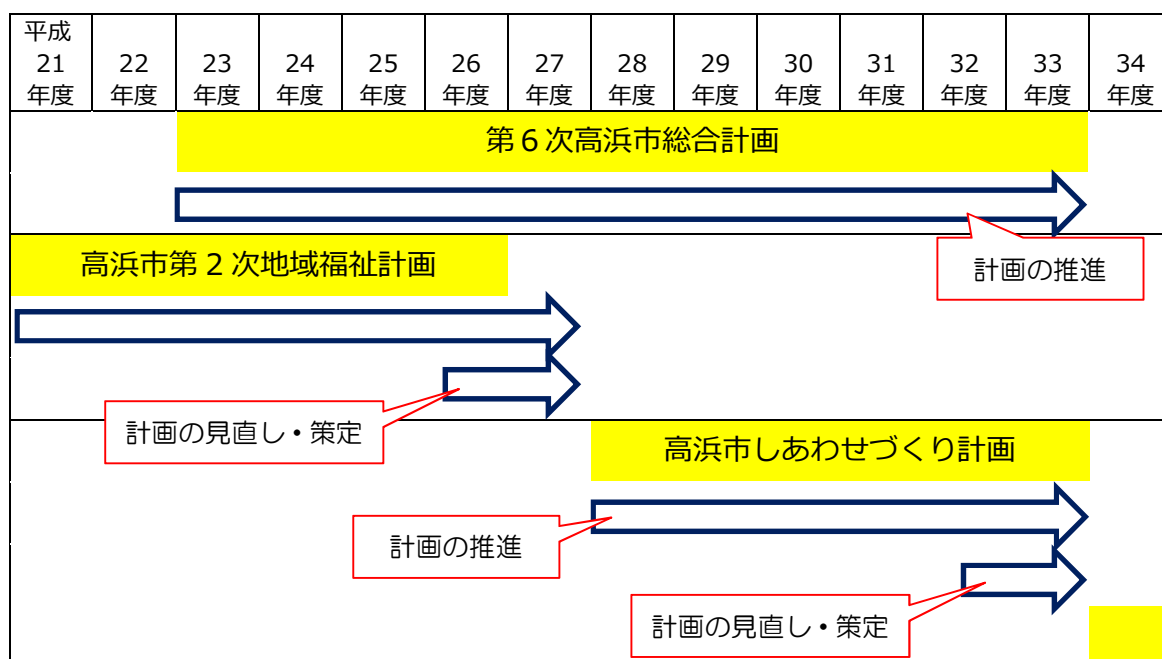
『高浜市しあわせづくり計画』は、既存の各種計画と相互に連携し、補完し合いながら実践につなげていきます。特に、高浜市社会福祉協議会の地域福祉活動計画とは一体となって策定し、事業を推進していきます。



VI. 高浜市しあわせづくり計画の期間

計画の期間は、第6次高浜市総合計画の計画期間を鑑み、平成28年度から平成33年度の6年間とします。

なお、社会情勢の変化や地域福祉政策の整備状況、国の動向等を踏まえて、必要に応じて見直しを行います。



第2章 しあわせを感じるためにみんなのできること

本章では、地域福祉（ふだんのくらしをしあわせにする）を推進し、高浜市に暮らす誰もが「しあわせ」を感じ、「いつまでも住み続けたい！」と思える高浜市を実現していくために、市民・地域（町内会、まちづくり協議会、市民活動団体、NPO、企業など）・行政・社会福祉協議会が1つの家族のように協力・役割分担して、みんなのできることをまとめました。

取組み項目の実践にあたっては、「自分たちができること」について検討してきた、「しあわせづくりワークショップ」で作成した別添『活動リスト』や『実践動画』などの活動を切り口に、取り組んでいきます。



(取組み項目)

I. みんながそれぞれの役割を発揮し、協力して取り組むまちづくり【協働】

- 1 地域の活動にみんなで参加しよう …P.10
- 2 地域のコトを多くの人に発信しよう …P.11
- 3 寄付で支え合う風土を育もう …P.12

II. 生涯を通じて学び合い、ゆたかな未来を育むまちづくり【文化、教育、生涯学習】

- 1 世代・文化を超えて交流しよう …P.13
- 2 まちへの愛着と誇りを高めていこう …P.14
- 3 子どもたちの「学び」をみんなで育もう …P.15

III. まちの資源を活かした、活力ある、安全・安心なまちづくり【産業、環境、防犯、防災】

- 1 コミュニティ・ビジネスにチャレンジできるまちにしよう …P.16
- 2 みんなでまちをきれいにしよう …P.17
- 3 地域の連携を深め、災害に備えよう …P.18
- 4 みんなで犯罪のないまちにしよう …P.19

IV. お互いに助け合いながら、いつまでもその人らしく生きがいを持って暮らせるまちづくり【福祉】

- 1 住み慣れた地域で暮らし続けることができる体制をつくろう …P.20
- 2 生涯現役を目指そう …P.23
- 3 認知症予防を進め、認知症の人を支えよう …P.24
- 4 生活上のちょっとした困りごとをみんなで支えよう …P.24
- 5 みんなで見守る仕組みをつくろう …P.26
- 6 災害時に援護が必要な方の支援体制をつくろう …P.27
- 7 みんなが活躍できるまちにしよう …P.28
- 8 楽しく子育てできるまちにしよう …P.29

地域の活動にみんなで参加しよう

背景

高浜市では、まちづくり協議会をはじめ町内会やおやじの会、PTAなどの各種団体が活発に活動をし、地域課題の解決やつながりづくり、地域への愛着や魅力の向上などに取り組んでいます。

自分たちが暮らすまち・地域で行われている活動に興味・関心を持ち、参加することが、自分のまちを良くしていきたいという想いにつながっていきます。

こんなことがあればいいな

- 働き盛りの若いうちから地域に出られるといいよね。
- おやじの会が全地域でできるといいな。
- 新しく引っ越してきたときに、地域のことを知る機会がほしい。
- 子どももたくさん参加してくれるといいね。

具体的な取組みは…

★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ① 地域で行われている活動に興味・関心を持とう。
- ② 地域の活動に、家族や友人も誘って参加しよう。
- ③ 町内会に加入し、活動に参加しよう。
- ④ 地域・団体は誰でも参加しやすい雰囲気をつくろう。



★行政は、こんなことに取り組みます

- ① 市民・地域の「やりたい」を支援します。
- ② 若い世代がまちづくりに関心を持つしかけづくりをします。
- ③ 若い世代・シニア世代の地域デビューのきっかけづくりをします。
- ④ 市民・地域の活動を支える職員を育成します。

★社会福祉協議会は、こんなことに取り組みます

- ① ボランティアセンターを通じて「やりたい」気持ちを地域につなげます。
- ② ボランティアへの参加のきっかけづくりをします。

関連計画

❖ 第6次高浜市総合計画

地域のコトを多くの人に発信しよう

背景

高浜市では、広報紙やホームページ、フェイスブックなどでさまざまな情報を発信しています。地域の団体においてもさまざまな媒体を活用して情報を発信しています。近年では、SNS等により個人が活動の様子も発信をするなど、私たちのまわりには多くの情報が流れています。

必要としている人に必要としている情報が確実に届くこと、地域で行われている素晴らしい活動を多くの人に伝えていくことが大切です。

こんなことがあればいいな

- イベントが重ならないようになるといいね。
- 個人や団体・企業が行っている地域活動が、もっと発信できるといいね。

具体的な取組みは…

★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ① 参加した活動・興味のある活動を他の人に紹介しよう。
- ② SNS等※を使って地域のコトを発信しよう。
- ③ 地域・団体は広く活動のPRに努めよう。



★行政は、こんなことに取り組みます

- ① 広報紙やホームページ等で地域活動を発信します。
- ② 活動が重ならないよう、決定したイベントや行事の情報を速やかに発信します。
- ③ 若い世代に地域活動に興味・関心を持ってもらうため、おしゃれでかっこよく情報を発信します。
- ④ フォーラム等で広く地域の活動・団体を紹介し、発信します。

★社会福祉協議会は、こんなことに取り組みます

- ① 広報誌「ふくし」やホームページ等を通じて地域福祉活動を発信します。
- ② イベントや各施設等を通じて地域の活動・団体を紹介します。

※SNS…facebook、Twitter、LINEなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス

関連計画

❖第6次高浜市総合計画

❖第2次高浜市生涯学習基本構想

寄付で支え合う風土を育もう

背景

近年、幾度かの大震災を経てわが国でもボランティアの重要性が再認識され、ボランティア活動を通して自己実現を図ったり、心の豊かさを求める意識が高まってきました。また、社会に役立ててもらいたいとの意向をもとにした寄付金も多くなってきています。

多くの人を持っている「社会の役にしたい」という公共への関心と意識を大切に、寄付で支え合う風土を育てていきます。

こんなことがあればいいな

- 地域活動・ボランティア活動などに対する寄付の仕組みを考えるといいよね。
- ふるさと納税のお返しとして、卵などを毎月送ってあげるといいね。

具体的な取組みは…

★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ① 応援したい活動を見つけ、寄付しよう。
- ② いただいた寄付は大切に使う。
- ③ クラウドファンディング※など、公費に頼らない仕組みを検討しよう。

★行政は、こんなことに取り組みます

- ① 寄付制度を周知し、活用に関する相談や支援を行います。
- ② ふるさと応援寄付金を広くPRします。
- ③ 地域福祉の財源（ファンド）のあり方について検討します。

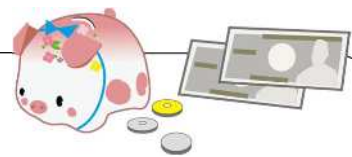
★社会福祉協議会は、こんなことに取り組みます

- ① 地域福祉の推進に役立っている（車いすの貸し出しなど）赤い羽根共同募金や会費について広く周知し、理解促進に努めます。
- ② 募金等について協力者の拡大につながる仕組みを検討します。

※クラウドファンディング…不特定多数の人が通常インターネット経由で他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うこと

関連計画

- ❖ 第6次高浜市総合計画



世代・文化を超えて交流しよう

背景

市内には、世代や国籍、価値観などが異なる方々が暮らしています。少子高齢化や国際化が進む中で、異なる世代や文化を持つ方と関わる機会は、今後増えていきます。

地域活動を通じて、世代・文化を超えて交流することで、年齢や国籍にかかわらず、認め合い、理解し、助け合いながら暮らしていくことができるまちを目指していきます。

こんなことがあればいいな

- 高齢者・子ども・外国人など、みんなが交流できる場があるといいよね。
- みんなで考えるときに、外国人の意見も聞きたいな。

具体的な取組みは…



★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ①地域や学校活動に積極的に参加しよう。
- ②国籍を超えて地域活動への参加を呼びかけよう。
- ③地域・団体は若い世代や外国籍の方々が、町内会やまちづくり協議会、各種団体の活動などに参加しやすい環境を整えよう。
- ④地域・団体は世代や国籍を超えて、一緒に集まり交流する場を増やそう。

★行政は、こんなことに取り組みます

- ①世代間交流事業等に人的・財政的に支援します。
- ②国籍を超えて地域の担い手として活躍できる環境づくりをします。
- ③世代・文化を超えて交流できる行事等の情報を発信します。
- ④地域や市民団体、生涯学習施設、関係機関、企業、行政などが互いに連携・協働できるネットワークの構築を目指します。

★社会福祉協議会は、こんなことに取り組みます

- ①ボランティアセンターを含む既存ネットワークを活用し、さまざまな世代・文化の交流を図ります。
- ②地域共生型福祉施設あつぽをはじめ、各施設における世代間交流を進めます。



関連計画

❖第6次高浜市総合計画

❖第2次高浜市生涯学習基本構想

まちへの愛着と誇りを高めていこう

背景

自分の暮らすまちのことを知ることが、自分のまちを大切にする意識を育み、新たな人と人のつながりを生みだしていきます。

地域に伝わる歴史や守り続けてきた伝統文化を次の世代に継承し、高浜市の自慢に磨きをかけることを通じて、まちへの愛着と誇りを高めていきます。

こんなことがあればいいな

- 他の人に知識を伝えられることがしあわせ。
- もっといろいろなコトを知りたい。そういう情報や場所があるといいね。

具体的な取組みは…

★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ①大人は自分が知る歴史や伝統、技術・知識を子どもたちに伝えよう。
- ②若者はまちの文化に関心を持とう。
- ③地域の祭りや伝統文化・スポーツイベントなどの、まちの行事に参加しよう。
- ④地域・団体は自然や伝統文化などの地域資源を活かして、想いを伝えていける「機会」を創出しよう。

★行政は、こんなことに取り組みます

- ①学校・地域・団体など各種主体が連携できるよう調整を図ります。
- ②自ら考え企画し、新たなことに挑戦できる人材を育成します。
- ③学び合い・語り合う仕組みや体制をつくります。

関連計画

- ❖第6次高浜市総合計画
- ❖第2次高浜市生涯学習基本構想



子どもたちの「学び」をみんなで育もう

背景

将来、このまちに住みたいと願う未来市民を育成するには、高浜市として育てていきたい子どもの姿を学校・家庭・地域で共有し、みんなで育てていくことが必要です。

子どもたちが「高浜市の良さ」や「高浜市の一員である」ことを感じられるよう、学校や家庭だけでなく、地域のさまざまな人と関わりながら学ぶことが、高浜を愛し、高浜でたくましく生きる未来市民を育てていきます。

こんなことがあればいいな

- 子どもが自分たちのまちの良さを知る・感じる機会があるといいよね。
- 趣味や特技を持っている人を、子どもの「学び」につなげられるといいね。

具体的な取組みは…

★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ① 大人は子どもたちに「高浜市の良さ」を伝えよう。
- ② 大人は先生役として、子どもたちの「学び」を見守ろう。
- ③ 企業は強みを活かし、子どもたちに新しい発見・経験を与えよう。
- ④ 地域は学校等と連携して「学び」の場や交流の機会をつくろう。



★行政は、こんなことに取り組みます

- ① まちづくりへの関心・意欲を高めるための出前事業を行います。
- ② 地域住民や団体などに協力いただきながら、教育環境の充実に取り組みます。
- ③ 地域等と連携して子どもに体験する機会を創出します。
- ④ 貧困の連鎖を断ち切るため、困窮家庭の子どもたちの学習等を支援します。

★社会福祉協議会は、こんなことに取り組みます

- ① 高齢者、障がい者、子どもを含めた全ての人々が支え合う社会の理解を深めるため、各学校における福祉教育の支援をします。
- ② イベント、行事等で福祉に係る経験ができる機会を創出します。

関連計画

- ❖ 第6次高浜市総合計画
- ❖ 第2次高浜市生涯学習基本構想
- ❖ 高浜市教育基本構想

コミュニティ・ビジネスにチャレンジできるまちにしよう

背景

市民の暮らしを支えていくためには、公的サービスに加え、補完する、一人ひとりにあった支え合いのサービス、居場所を提供するような仕組みが必要です。

地域の中で、市民による福祉活動が充実するよう、活動に適度な事業性を加味して、得られる収入が地域に還元され、利用される市民も含めて地域の力が高まり、人が集まり、心豊かになる活動が期待されています。

こんなことがあればいいな

- 空き家の活用、軽トラ市、地域を盛り上げるフリマなどのビジネスができるといいね。
- 徒歩や自転車で行けるくらいのところに買い物できる場所がほしい。
- 起業について教えてもらえる場があるといいな。

具体的な取組みは…



★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ①地域の困りごとを解決できるコミュニティ・ビジネスを考えてみよう。
- ②自分が持っている知恵・経験・技能・地域資源を活かしたコミュニティ・ビジネスにチャレンジしよう。
- ③空き家・空き店舗や新たな市庁舎のチャレンジスペースを活用しよう。

★行政は、こんなことに取り組みます

- ①ビジネスチャレンジャーと地域・企業等との連携促進を図る機会を創出します。
- ②創業・持続的な経営に向けた支援をします。
- ③ビジネスチャレンジャーの活動や支援情報を発信します。
- ④コミュニティ・ビジネスの担い手として、まちづくり協議会などの各種団体に働きかけていきます。

★社会福祉協議会は、こんなことに取り組みます

- ①地域課題の把握に努めます。
- ②地域課題について地域が解決する手法をともに考え、サポートします。

関連計画

- ❖第6次高浜市総合計画

みんなでまちをきれいにしよう

背景

高浜市は、「みんなでまちをきれいにしよう条例」に基づき、個人・団体・地域・企業がまちをきれいにしようと、さまざまな環境美化活動に取り組んでいます。

しかし、たばこや空き缶のポイ捨て、ごみ出しのマナー、建築物への落書き、飼い犬の散歩中のふんの放置など、モラルの欠如や、マナー違反の行為はまだまだなくなりません。きれいな高浜市を次の世代に引き継いでいくため、市民の環境に対するモラルの向上を図っていく必要があります。

こんなことがあればいいな

- ごみ出しのルールが守られ、ゴミステーションがきれいだといいいのになあ。
- ごみのポイ捨てがなくなるといいな。

具体的な取組みは…

★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ①一人ひとりができるべくごみを出さないように工夫しよう。
- ②出すごみは分別しよう。
- ③ゴミ出しのマナーを守ろう。
- ④ゴミ出しのできない高齢者等を隣近所で助け合おう。
- ⑤市民・地域・企業で不法投棄をしない・させないよう注意しよう。

★行政は、こんなことに取り組みます

- ①ごみの発生・排出抑制、資源化のための分かりやすい仕組みをつくりまます。
- ②市民、企業、各種団体・グループとの連携・協働に努めます。
- ③環境学習や出前事業等により子どもたちに環境活動の大切さを伝えます。
- ④まちの緑や水辺空間の保全に対して市民・地域・団体と一緒に考え支援します。



関連計画

- ❖第6次高浜市総合計画
- ❖高浜市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画
- ❖高浜市都市計画マスタープラン
- ❖高浜市緑の基本計画



地域の連携を深め、災害に備えよう

背景

近い将来に発生が予測される大災害に加え、集中豪雨・台風・火災などの災害の被害を最小限に食い止めるためには、一人ひとりがいざという時に行動できるよう「自らの安全は自ら守る(自助)」という意識を持ち、「地域の安全は地域で守る(互助)」ために、日頃から住民同士が声をかけ合えるような関係づくりが必要です。

こんなことがあればいいな

- 災害時にパニックにならないよう、普段の心がけや準備が大切だよね。
- 外国人も含めた防災体制ができるといいね。

具体的な取組みは…



★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ① 普段から家族で防災の話をするなど、防災意識を高めよう。
- ② 防災訓練などに参加しよう。
- ③ 非常用持ち出し品の準備をしよう。
- ④ 災害時に助け合えるよう、日頃から隣近所で声かけやあいさつをしよう。
- ⑤ 地域の中で避難経路や避難場所を確認しよう。

★行政は、こんなことに取り組みます

- ① 地域や企業と連携した防災訓練を実施します。
- ② 防災意識を高めるための啓発を図ります。
- ③ 災害時の情報伝達を効率的に行います。
- ④ 災害に備え、防災資機材を整備します。
- ⑤ 高浜市と協定を締結している福祉避難所が円滑に運営できるよう防災訓練や防災用品の整備を支援します。

★社会福祉協議会は、こんなことに取り組みます

- ① 外国人の方への対応も含めた災害ボランティアセンターの仕組みを整えます。
- ② 福祉避難所を円滑に運営するため、定期的な訓練を実施します。

関連計画

❖ 第6次高浜市総合計画

❖ 高浜市地域防災計画

みんなで犯罪のないまちにしよう

背景

高浜市では「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」に基づき、地域・警察・関係機関が連携し、犯罪の未然防止活動を推進しています。

空き巣や盗難などの犯罪を未然に防ぎ、日常の暮らしの安心を守るためには、個人・地域の防犯力を高めていくことが必要です。

こんなことがあればいいな

- 暗い道が多いから、街灯が増えるなど道が明るくなるといいな。
- 近所に頼れる人がいてほしい。

具体的な取組みは…

★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ①戸締りや声掛けなどを通じて防犯意識を高めよう。
- ②地域や企業が実施する防犯パトロールに参加・協力しよう。
- ③防犯講話や防犯教室などに参加し、知識と技術を身につけよう。

★行政は、こんなことに取り組みます

- ①地域安全情報の提供など、犯罪の防止に係る広報や啓発を行います。
- ②高浜市防犯ネットワーク会議により関係団体・機関と連携します。
- ③警察と連携し、防犯講話や防犯教室を開催します。
- ④防犯施設（防犯灯など）の新設や維持管理を適正に行います。

★社会福祉協議会は、こんなことに取り組みます

- ①各種見守り活動を通じて、防犯の普及啓発に努めます。
- ②施設運営において防犯講話等を実施します。

関連計画

- ❖第6次高浜市総合計画



住み慣れた地域で暮らし続けることができる体制をつくろう

背景

2025年には団塊の世代が75歳以上になり、超高齢社会を迎えます。また、市民が抱える課題や福祉ニーズは、年々複雑で困難なものになっています。そこで、家族、近所、町内会、まちづくり協議会などの地縁のネットワークと民生児童委員やNPO法人などが協力し、また、医療機関やサービス提供事業者などの専門職が連携し、一人ひとりを支えるための地域特性に応じた体制が求められています。

こんなことがあればいいな

- 体調不良になったときに看病してほしい。
- 近所に頼れる大人がいたらいいな。
- 子育て中の人困っている時に、助けてくれる人がたくさんいたらいいな。
- いろいろな人がいることをもっと知ってほしい。
認知症、障がい者、発達障害、性同一性障害、妊産婦、子育て世代…

具体的な取組みは…

★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ①一人で悩まず、いきいき広場（福祉まると相談グループ）や民生児童委員に相談しよう。
- ②隣近所の見守り・声かけを行おう。
- ③町内会へ加入し、活動に参加しよう。
- ④身近なところで地域の生活課題を発見・共有し、解決に向けた話し合いを持とう（まちづくり協議会）。

★行政は、こんなことに取り組みます

- ①町内会やまちづくり協議会などの取組みを支援します。
- ②地域包括ケアシステムの仕組みをつくりまます。
- ③職員の専門性を高め、相談窓口を強化します。

★社会福祉協議会は、こんなことに取り組みます

- ①生活の困りごと・悩みの把握に努めます。
- ②生活課題の解決に行政、各関係機関、地域等と連携して取り組みます。

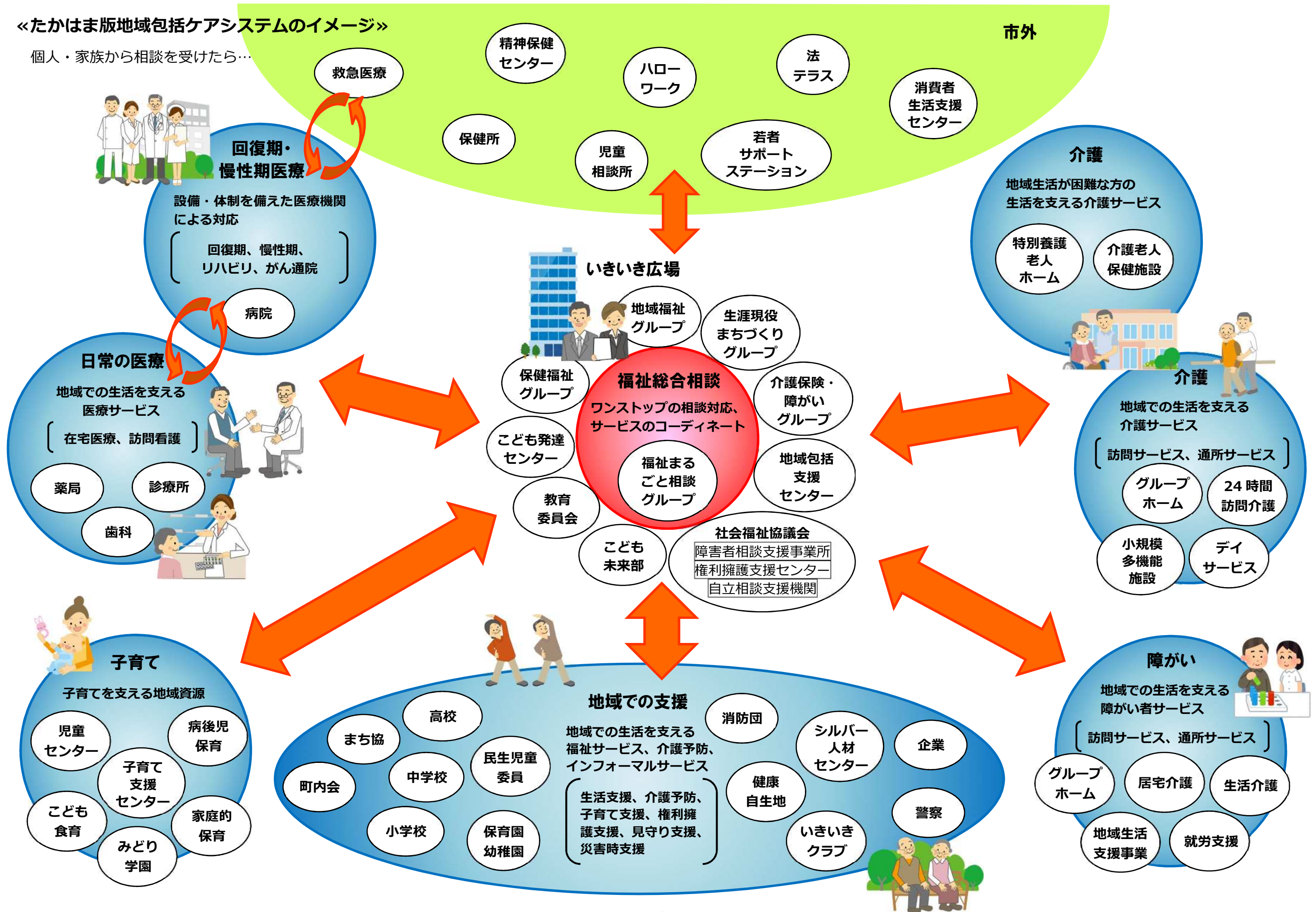


関連計画

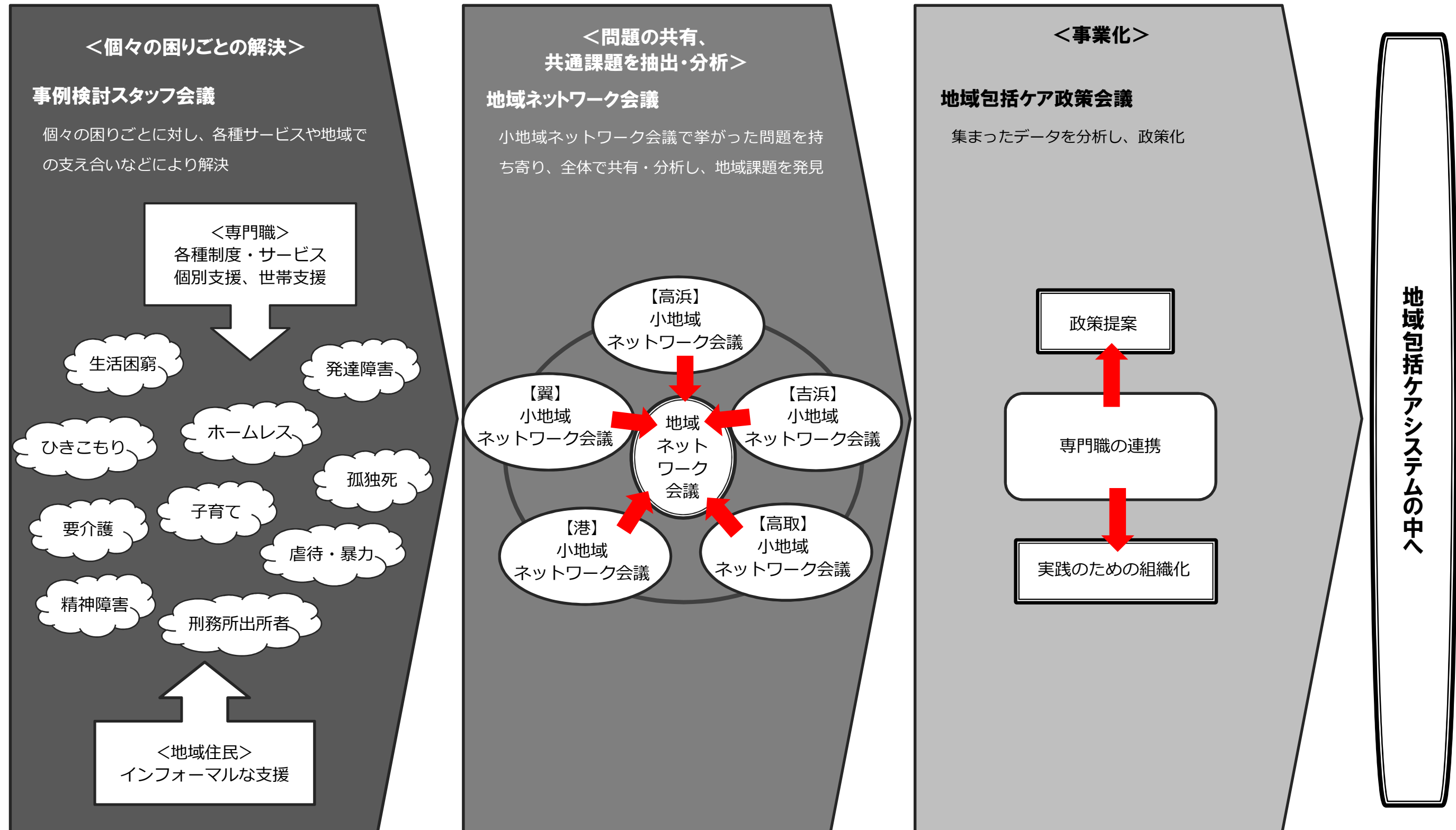
- ❖第6次高浜市総合計画
- ❖高浜市障がい者福祉計画
- ❖第6期高浜市介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画

「たかはま版地域包括ケアシステムのイメージ」

個人・家族から相談を受けたら…



「個別援助から地域支援への展開過程」



生涯現役を目指そう

背景

高齢化が進む中、要介護認定者や認知症高齢者の大幅な増加による医療費などの増大が予想されるため、介護予防・認知症予防の取組みが大切になってきています。

介護保険を利用していない元気な高齢者に、いつまでも健康的に、生きがいを持って暮らしていただけるよう、家に閉じこもらず、人と人とのつながりを通じた、地域での居場所・役割づくりを進める必要があります。

こんなことがあればいいな

- 健康づくりに取り組んで、いつまでも元気でいたい。
- 閉じこもりがちな高齢者が外出したくなる場所があるといいな。
- いろいろな人とつながり、おしゃべりできる場所がたくさんほしい。
- 高齢者ならではの昔の話や経験談などを交えて、多世代が交流できるといいな。

具体的な取組みは…



★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ①家に閉じこもらず、他の高齢者も誘いながら、積極的に外出しよう。
- ②地域や市、社会福祉協議会で実施しているさまざまな活動に参加しよう。
- ③地域の中で高齢者の居場所を発掘しよう。
- ④趣味や特技を活かして、担い手として活躍しよう。
- ⑤適度な運動や食生活の改善などを行い、自らの健康づくりに取り組もう。

★行政は、こんなことに取り組みます

- ①高齢者の外出促進の取組みや、地域の居場所の情報などを発信します。
- ②いきいき健康マイレージ制度や健康づくり活動を応援する制度を充実します。

★社会福祉協議会は、こんなことに取り組みます

- ①高齢者の居場所や活動の場を創出します。
- ②高齢者の健康づくり活動やボランティア活動を応援する制度を運用します。
- ③ボランティア活動のコーディネートをします。

関連計画

- ❖第6次高浜市総合計画
- ❖第6期高浜市介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画
- ❖第2期高浜市国民健康保険特定健康診査・特定保健指導実施計画

認知症予防を進め、認知症の人を支えよう

背景

認知症の人の意志が尊重され、できる限り住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けることができるまちづくりが求められています。また、認知症の予防から早期発見、早期支援の一連のシステムを構築していくことが必要です。

こんなことがあればいいな

- 健康づくりに取り組んで、いつまでも元気でいたい。
- 認知症の人が交流できる場所があるといいな。



具体的な取組みは…

★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ①家に閉じこもらず、積極的に外出して適度な運動や地域の人と交流するなど、自ら認知症予防に取り組もう。
- ②地域や企業で認知症サポーターを養成しよう。
- ③地域で知的活動や運動など認知症予防を行おう。

★行政は、こんなことに取り組みます

- ①認知症ケアパスにより、その人の状況に応じた適切な支援を行います。
- ②認知症初期集中支援チームを本格稼働させ、初期対応を充実します。
- ③国立長寿医療研究センターと共同で認知症リスクの検証を行い、認知症の予防活動につなげます。
- ④認知機能の低下を防ぐ予防プログラムをつくります。

★社会福祉協議会は、こんなことに取り組みます

- ①新たに地域共生型の認知症グループホームを開設します。
- ②認知症の人やその家族が気軽に立ち寄り、地域の人と楽しく過ごせる「認知症カフェ」を運営します。



関連計画

- ❖第6次高浜市総合計画
- ❖第6期高浜市介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画

生活上のちょっとした困りごとをみんなで支えよう

背景

高齢者や障がいのある人だけではなく、誰もがちょっとした日常生活上の困りごとを支え合う仕組みが求められています。

高齢者、障がいのある人、子どもなど一人ひとりが自分たちの力を発揮し、地域のつながりや住民の力を活かしたまちをつくる必要があります。

こんなことがあればいいな

- 近所・地域の人と交流して、地域のネットワークが広がるといいね。
- いざという時に、近所に頼れる人がほしい。
- 家事、子育て、買い物など、ちょっと手助けしてもらえると嬉しいな。

具体的な取組みは…

★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ①日頃から近所や地域の人と交流し、ちょっとしたお手伝いをしよう。
- ②地域の中で生活上の困りごとを相談できる相手をつくろう。
- ③地域の中での支え合いの仕組みをつくろう。

★行政は、こんなことに取り組みます

- ①地域の支え合い活動を進めるため、地域活動をしている人が連携、協働する場をつくります。
- ②地域の中で支え合う仕組みを広めます。

★社会福祉協議会は、こんなことに取り組みます

- ①地域の支え合いをコーディネートする推進役を育成・確保します。
- ②地域活動をする人を育てます。
- ③地域活動をしている人たちの集いの場をつくり、顔の見える関係をつくりま
す。



関連計画

- ❖第6次高浜市総合計画
- ❖第6期高浜市介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画
- ❖高浜市障がい者福祉計画

みんなで見守る仕組みをつくろう

背景

認知症高齢者、独居高齢者、老々世帯が増加しており、徘徊高齢者の捜索なども多数発生しています。また、核家族化の進展により、子育て不安も広がっています。みんなが安心して地域で暮らし続けるために、見守られる人、見守る人がお互いに支え合う地域づくりが求められています。

こんなことがあればいいな

- 近所に頼れる人がほしい。
- 認知症高齢者の徘徊などには、近所や顔見知りの人の見守りが大切だね。

具体的な取組みは…

★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ① 近所の人と日頃のあいさつを通じて顔のみえる関係をつくろう。
- ② 近所の心配な情報をいち早く市へ連絡しよう。
- ③ 住民や企業など地域で見守るネットワークを強化しよう。
- ④ 認知症の方への対応方法を学ぼう。



★行政は、こんなことに取り組みます

- ① SOSメール受信者を一人でも多く募っていきます。
- ② 見守りネットワーク委員会を開催し、関係機関の連携を強化します。
- ③ 地域の見守りに関する情報をもとに、訪問による支援を実施します。
- ④ 地域と一体となって、虐待防止や権利擁護の取組みを推進します。

★社会福祉協議会は、こんなことに取り組みます

- ① 地域の困りごと、心配ごとをすくい上げるコーディネーターを育成します。
- ② 地域の見守り体制構築を地域住民と一緒に取り組みます。
- ③ 小地域ネットワーク会議を開催し、地域の課題解決に取り組みます。

関連計画

- ❖ 第6次高浜市総合計画
- ❖ 第6期高浜市介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画

災害時に援護が必要な方の支援体制をつくろう

背景

地震などの災害時には、自力での避難や一般避難所での生活が困難な高齢者、要介護認定者、障がい者、乳幼児など援護が必要な方への支援が大切です。

日頃から地域の中で要援護者を把握し、関係づくりに努めるなど、災害時に要援護者の犠牲者を1人も出さないような支援体制づくりと、安心した避難生活が送れるための環境整備が必要です。

こんなことがあればいいな

- 減災には、地域や近所の協力・助け合いのための情報共有が不可欠だね。
- 普段からの仕組み・関係づくりが大切だね。

具体的な取組みは…



★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ① 高齢者、障がい者など、身近な要援護者を日頃から把握しよう。
- ② 要援護者一人ひとりに対し、避難支援者の確保や避難場所、避難経路の確認を行おう。
- ③ 各地区の防災訓練時に、要援護者の避難訓練を行おう。
- ④ 日頃の近所付き合いの中から、災害時に助け合える関係をつくろう。

★行政は、こんなことに取り組みます

- ① 要援護者の実態を把握し、その情報を地域に提供します。
- ② 要援護者一人ひとりの避難支援計画を地域とともに作成します。
- ③ 要援護者情報の漏えいを防止するための措置を講じます。
- ④ 認知症高齢者、要介護認定者、障がい者、妊産婦、乳幼児などに配慮し、福祉避難所を充実します。

★社会福祉協議会は、こんなことに取り組みます

- ① 災害ボランティアセンターの運営が円滑にできるよう、人材養成や仕組みの充実に努めます。
- ② 妊産婦、乳幼児などに配慮した福祉避難所を運営できるよう、定期的な訓練を実施します。



関連計画

- ❖ 第6次高浜市総合計画
- ❖ 高浜市地域防災計画
- ❖ 第6期高浜市介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画
- ❖ 高浜市障がい者福祉計画

みんなが活躍できるまちにしよう

背景

市民同士の支え合いの取組み（互助・共助）を育みつつ、高齢者や障がい者、生活困窮者など、これまで「支えられる側」であった人を、自立に向けて地域で支援し、「社会の担い手」、「地域福祉の担い手」として活躍してもらうことが、将来に渡って活力ある地域社会を維持していくために必要です。

こんなことがあればいいな

- 人に必要とされ、感謝されると嬉しいよね。
- 高齢者や障がい者なども、サポートがあれば働きたい。
- 自分のできることを活かして活動したい。



具体的な取組みは…

★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ① 困りごとを抱えた人がいたら、市や専門機関につなげよう。
- ② 日頃の地域活動などを通して、困りごとを抱えた人に声かけしよう。
- ③ それぞれの立場で「できることは何か」を考え、実行に移そう。
- ④ 企業は、働きたい人が働ける場づくりに努めよう。

★行政は、こんなことに取り組みます

- ① いきいき広場を中心とした総合相談支援体制を充実します。また、「生活困窮者自立支援法」が地域に根付くよう、制度の周知に努めます。
- ② 貧困の連鎖を断ち切るため、困窮家庭の子どもたちの学習等を支援します。
- ③ 身近な社会参加の場や誰にとっても働きやすい就労の場を開拓します。
- ④ 子育て中でも働けるよう、子どもを預けられる場の確保に努めます。

★社会福祉協議会は、こんなことに取り組みます

- ① 行政と緊密に連携し、困りごとを抱えた人に寄り添った支援を行います。
- ② 地域に出向き、市民・地域の「できること」を引き出します。
- ③ 制度の狭間にある市民・地域の困りごとの発見・解決に努めます。

関連計画

- ❖ 第6次高浜市総合計画
- ❖ 第6期高浜市介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画
- ❖ 高浜市障がい者福祉計画
- ❖ 高浜市第4期障がい福祉計画
- ❖ 高浜市子ども・子育て支援事業計画

楽しく子育てできるまちにしよう

背景

核家族化や地域のつながりの希薄化などにより、地域で妊産婦やその家族を支える力が弱くなっています。出産や妊娠についての保護者の不安や負担が増えており、身近な場所で妊産婦を支える仕組みと、育児不安や悩みのある人が相談できるサポート体制が必要です。

こんなことがあればいいな

- 子育て中の困りごとの相談に乗ってもらったり、ちょっと手助けしてほしい。
- 近所に頼れる人がほしい。
- 初めての子育てに不安な人に、アドバイスしてくれる人がいてくれるといいな。
- 子育て中もリフレッシュできる時間がほしい。

具体的な取組みは…

★市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”

- ①妊産婦を家族みんなで支えよう。
- ②地域の中で妊産婦や子どもを見守ろう。
- ③地域で子育て中にリフレッシュや交流できる場をつくろう。
- ④企業は、働きながら子育てしやすい環境づくりに努めよう。



★行政は、こんなことに取り組みます

- ①保健師が妊産婦に寄り添い、必要な相談支援を行います。
- ②産前産後のサポート体制を充実します。
- ③食育や生涯学習などを通じた子どもの成長を感じられる機会を創出し、育児の喜びを伝えます。

★社会福祉協議会は、こんなことに取り組みます

- ①ベビーシッターや子どもの送迎など相互扶助で支えるふれあいサービスを必要な人につなげます。
- ②ふれあいサービスの充実に向け、地域の人材確保を図ります。

関連計画

- ❖第6次高浜市総合計画
- ❖高浜市子ども・子育て支援事業計画

第3章 行政の役割と応援すること

I. 行政の役割とは

高浜市に暮らす誰もが、日常の「心地よさ」を感じ、「住み続けたい」と思える地域を創りあげていくためには、市民一人ひとりの「行動」が最も大切ですが、すべてを市民の皆さんへ委ねるのではなく、住み慣れた地域で行政と住民が一体となって支え合い、総合的に取り組むといったことも必要不可欠であります。

地域の多様な生活課題に迅速かつ的確に対応し、年齢・性別・障がいの有無・国籍などに関わらず、誰もが「しあわせ」を実感できる地域社会を築いていくためには、行政や社会福祉協議会などの公的機関による支援（＝公助）とともに、さまざまな主体が力を合わせて（＝共助）課題解決に取り組んでいける仕組みをつくっていくことが大切であり、その仕組みづくりが行政に求められる役割の一つといえます。

また、法律等に基づく公的サービスの実施や企画、またさまざまな活動やサービスを実現させるための法律や制度の整備といった、行政にしかできないことも大切な役割の一つです。

本章では、誰もが「しあわせ」を実感できる地域社会の実現に向け、「第2章 しあわせを感じるためにみんなでできること」に掲げられた『市民・地域は、“こんなことからはじめてみよう”』や、「しあわせづくりワークショップ」で作成した『活動リスト』を円滑に実施していくための横断的な環境・体制づくりについて示しています。

— 市民・地域が「できること」を実践できるように —

「ヒト」

を応援します

できることを実践する・実践したい市民・地域を応援（支援）します

「ココロ」

で支える風土を育みます

「ヒト」「コト」を応援する仕組みの構築や風土の醸成を図っていきます。

「コト」

を発信します

市民・地域が実践していることを広く発信します

Ⅱ. 行政が応援すること

1) 「ヒト」を応援します

- 法律や制度の整備など行政にしかできないことを、市民の想いを汲み取りながら行っていきます。
- “自分のまち”高浜市のために行動・実践する「ヒト」を育みます。
- 多様なつながりの中で「ヒト」と「ヒト」が出会い、自分たちが“できること”を考えることができる「場」や「機会」を創出します。
- 実践したい「ヒト」が実践できる「場」を一緒に創出します

2) 「ココロ」で支える風土を育みます

- 税に頼らない「ヒト」や「コト」を応援する新たな財源づくりを進めます。
- 寄付等で支え合うという機運を高め、風土を育みます。

3) 「コト」を発信します

- 市民・地域・企業・行政などさまざまな主体が実践している「コト（取組み）」をより多くの人に発信します。
- 活動者がより活動しやすくなるようさまざまな活動支援や行政・地域イベント等の市内で行われている「コト（情報）」を整理して、発信します。
- 「コト（情報）」を必要な人に的確につなぐ専門職を充実します。



第4章 社会福祉協議会の役割と応援すること

I. 高浜市社会福祉協議会の理念

社会福祉法において市町村社会福祉協議会は、「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」と規定されています。地域福祉とは、それぞれの地域において人々が安心して暮らせるよう、地域住民や公私の社会福祉関係者がお互いに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組む考え方です。その推進のために、社会福祉協議会は課題を抱える地域住民の声を拾い上げ、解決するにあたり、専門機関や各種団体、地域住民等が支援・協力し合って取り組んでいくようにする働きが大きな役割としてあります。高浜市社会福祉協議会においてもその役割をしっかりと果たせるように努めていきます。

理 念

**かけがえのない一人ひとりを大切にし、助けあい・支えあいの心を地域に広げます。
そして、誰もがしあわせで笑顔あふれるまち「たかはま」を目指します。**

① かけがえのない一人ひとりを大切にします。

声にならないニーズを発見し、制度の狭間にあるニーズや個々のニーズに柔軟に対応することで、困っている人をもれのないように支援できる社協を目指します。

② 助け合い・支えあいの心を地域に広げます。

地域福祉を推進する中核的な団体として、地域から「顔が見える」「信頼される」社協を目指します。そして、地域社会との架け橋となって、ボランティア精神を広め、みんなが助け合い・支え合える豊かな心を地域に広げていきます。

③ 誰もがしあわせで笑顔あふれるまち「たかはま」を目指します。

「困ったときは社協へ」を合言葉に、「高浜市に住んでいてよかった」と思える社協づくりを行います。そして、子どもからお年寄りまで全ての方が自分らしく安心して暮らすことができ、誰もがしあわせで笑顔が絶えない「たかはま」にしていきます。

Ⅱ. 高浜市社会福祉協議会の取組み

理念を踏まえて本計画の実現のために、高浜市社会福祉協議会は、以下の取組みを行っていきます。

1) 日常生活における困りごと対応力を強化します

高浜市社会福祉協議会は、「生活困窮者自立相談支援事業」「権利擁護支援センター事業」を行政から受託しており、窓口に見える生活に課題を抱えた相談者に対し、関係機関等と連携しながら、相談者が日常的な生活を自らの力で維持できるようにするための支援や、相談者の尊厳や人権が侵されることのないような支援をすることが求められています。加えて、相談者が隣近所などを始めとする地域の中で、その一員として、自立して生活できるように地域とのパイプ役を果たすことも求められています。

以上の役割を果たすには、各種関係機関との連携強化や職員力の向上が欠かせません。そのため、総合相談窓口である「いきいき広場」の機能の一つとしての役割をしっかりと果たすために、課題を抱える方々の情報を集約し支援にしっかりとつなぐことができるよう行政、各種関係機関、地域の各種団体と協議の場などを通じて、連携強化を図るとともに、支援が円滑にできるために、研修や外部実習などにより職員力の強化に努めます。



2) 高齢者・障がい者・子どもを含む包括的な支援をします

高浜市において検討が進められる地域特性に応じた「たかはま版地域包括ケアシステム」の構築について、高浜市社会福祉協議会では高齢者、障がい者、子どもを始めとする全ての人が住み慣れた高浜で安心して暮らしていけるまちづくりの推進において、その一端を担えるよう努めていきます。

そこで、高浜市社会福祉協議会では、高齢者、障がい者、子どもに対する、さまざまな支援事業を行っていることを活かし、更なる拡充として子どもから高齢者まで誰もが利用可能な地域共生型福祉施設の設置、運営を進めていきます。地域共生型福祉施設は、認知症高齢者やその家族を高齢者、障がい者、子どもを含む地域の方などと一緒に支えていく施設であり、地域交流スペースを中心とするさまざまな交流の中での相乗効果を期待しています。

さらに、個人だけでは抱えきれない課題や、制度の狭間のニーズを、地域の課題として取り上げ、町内会を始め、まちづくり協議会や民生委員などの地域で活動されている方々とともに解決していく「安心生活応援プラン事業」を進めていきます。

また、住民互助による「ふれあいサービス」では住民同士の支え合いによる家事援助、介護、子育て支援等の日常生活の支援を行っていますが、今後は人材の確保を行い、特に不足している子育て家庭のサポートを充実させ、より「住み慣れた町で、いつでも暮らしたい」という望みをお手伝いできるよう努めます。



3) 本計画の着実な実施に向けた計画を策定します

高浜市社会福祉協議会は、1)、2) に掲げた取り組みを確実に進めていく必要があることから、事業運営・経営のビジョンや目標を明確にし、その実現に向けた組織、事業、財務、人材育成等に関する具体的な取り組みを示す中期的な計画を策定します。

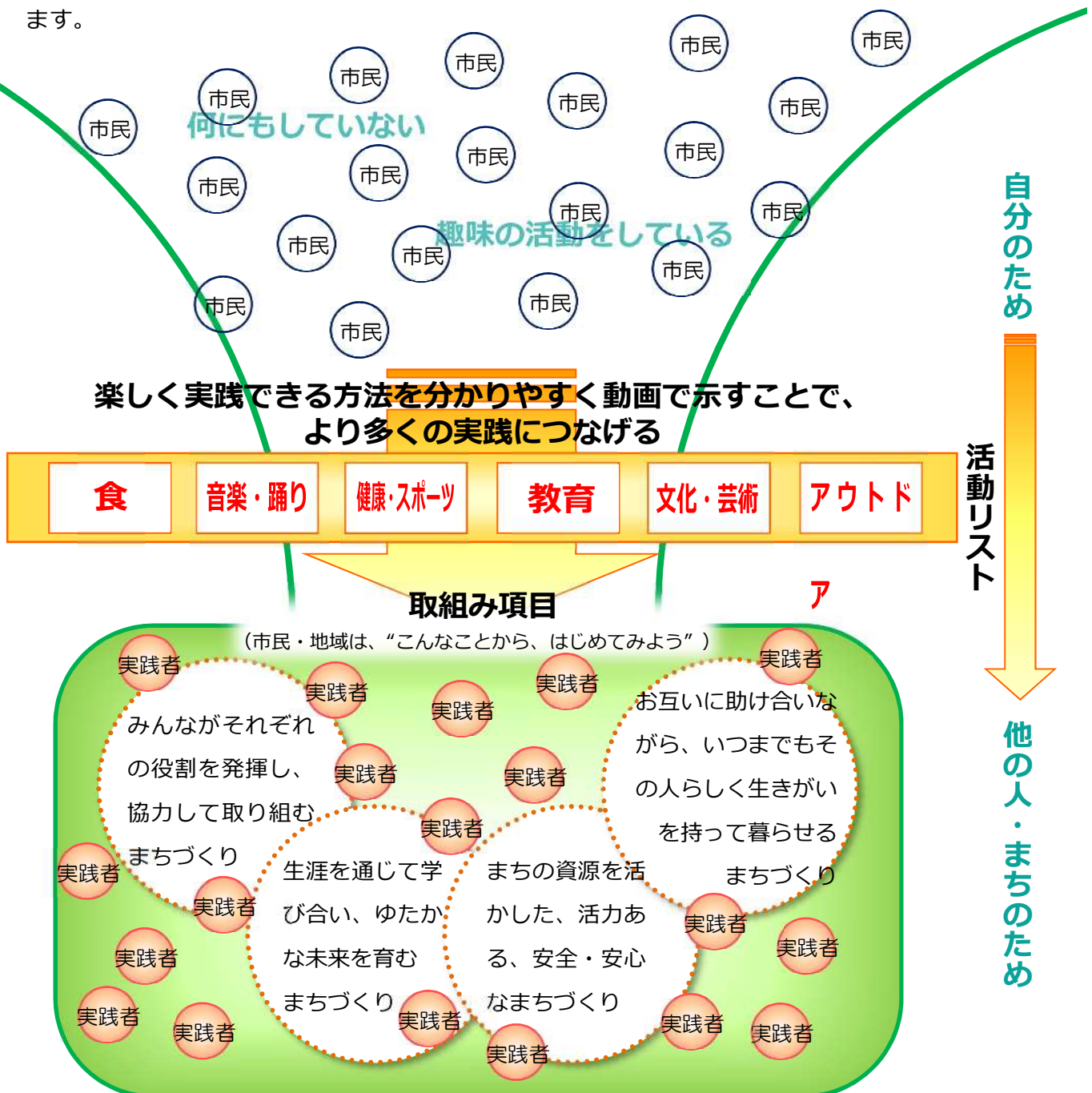
そこで、先に計画した「第1次高浜市社会福祉協議会発展・強化計画」の評価・分析を行うとともに、住民ニーズを踏まえた社会福祉協議会が行うべき事業を整理し、人材の育成や組織の強化を目的に、「第2次高浜市社会福祉協議会発展・強化計画」を策定します。



第5章 計画の推進に向けて

I. 「自分たちができること」が、実践されるように…

全ての市民が「しあわせ」を感じ、「いつまでも住み続けたい！」と思える高浜市を実現するために、しあわせづくり計画第2章に掲げる「取組み項目（市民・地域は、“こんなことから、はじめてみよう”）」が着実に実践されていくよう、しあわせづくりワークショップで作成した『活動リスト』や『実践動画』を活用し、計画を推進していきます。



Ⅱ. 計画の推進にあたって

1) 「しあわせ度」で効果を測定

計画の実践が、目指すべき姿につながっているかを測定するために、毎年度、市民の「しあわせ度」を測定します。

「しあわせ度」の測定については、第6次高浜市総合計画の進行管理における基本計画に掲げた目標の達成度合いや、「みんなで目指すまちづくり指標」の現状値を測定するために実施する「市民意識調査」にあわせて測定します。

しあわせが高まるように

2) 「自分ができること」の実践・創出

計画に掲げる「取組み項目」が着実に推進されるよう、しあわせづくりワークショップで作成した『活動リスト』の実践を支援していきます。

また、「自分ができること」を新たに創出する場や実践する機会を提供していくことで、実践者を増やしていくとともに、市民のしあわせを高めていきます。



3) 実践する方法の発信

「自分ができること」を実践している姿を写真や動画といった映像などを活用し、分かりやすく発信することで、新たな実践者を掘り起し、さらなる計画の推進を目指します。



Ⅲ. 「自分ができること」を楽しく実践するために… (活動リスト)



楽しく食事をしましょう

- 1. 高浜の食再発見!**
高浜のことをあまり知らない人に市内の食事処を紹介しましょう
- 2. 19日は家族そろって食べる日!**
毎月 19 日はコショコショ(個室・孤食)しないで家で家族そろってご飯を食べましょう
- 3. レッツノコミュニケーション**
地域で酒をくみかわすことで、仕事のストレス発散や新たな人脈づくりをしましょう
- 4. キッチン! つまみgood eat**
キッチンや野外で調理しながらつまみ食いやおしゃべりして楽しみましょう
- 5. カレーざんまい(三昧)**
各家庭のカレーを持ち寄って味比べしてみましょう
- 6. ピクニックだよ! 全員集合!!**
外で食事を持ち寄って、日光を浴びながら食べましょう



楽しく音楽・踊りを披露しましょう

- 1. ふらっと高浜でダンスしよう**
市内のいたるところでダンスを行い、周りの人と一緒にダンスを楽しみましょう
- 2. ふらっとカラオケで集まろう**
カラオケ好きのグループが集まって合同でカラオケを楽しみましょう
- 3. ふらっと特技を披露しよう**
お祭りやイベントのブースで歌や踊りなどの特技を披露し合いましょう
- 4. ふらっと校歌をうたおう**
イベントの最後にはみんなで一緒に母校の校歌を歌ってみましょう
- 5. ふらっと誕生日を歌で祝おう**
職場や家で誕生日の人に対してハッピーバースデーを歌いましょう
- 6. ふらっと楽器を奏でよう**
カスタネットやトライアングル等だれでも演奏できる楽器で音楽に合わせて鳴らしてみましょう



楽しく健康を維持しましょう

- 1. みんなで大なわとび**
公園で遊んでいる人たちと一緒に大なわとびをしてみましょう
- 2. てつぼう先生**
公園で遊んでいる子どもたちに鉄棒を教えてください
- 3. いつでもどこでもラジオ体操**
朝・昼・晩のいずれかに、公園・学校・会社・家のどこかでラジオ体操をしましょう
- 4. あなたのウォーキングコース**
市内のスポットを回るあなただけのウォーキングコースをつくりましょう
- 5. 万歩計で世界を歩く**
万歩計で歩いた距離と同じくらい離れた場所へ旅行に行きましょう
- 6. 3万円の服より3kgやせる**
1日3km歩いて3kgやせて3,000円の服を3万円に見せましょう



楽しく教え合いましょう

- 1. 教えて！あいさつ**
毎月0（ゼロ）のつく日は、大人が率先してあいさつする日にしましょう
- 2. 教えて！「かわら」はどこから**
瓦の由来や豆知識を教え合いましょう
- 3. 教えて！近所の楽しいところ**
SNSなどを使って近所の楽しいところを伝え合いましょう
- 4. 教えて！今さら聞けないスマホ**
おじいさん、おばあさんにスマホの基本を教えてください
- 5. 教えて！あなたの心に残った本**
身近な人に心に残った本を紹介合いましょう
- 6. 教えて！ゴミはどうなる**
ゴミをゴミにしない方法を勉強して解決策をみんなで考えましょう



楽しく文化とふれあいましょう

- 1. 高浜の文化と食のおしゃべり会**
高浜の文化を話しながら、とりめしやきらず揚げを食べるお茶会をしましょう
- 2. 探せ！！私だけのかわらスポット**
高浜市内にあるかわらを発見してスマホで撮影・発信しましょう
- 3. 未来へ語り継げ！！高浜の文化**
お祭りの話をさまざまな世代の人に聴きに行きましょう
- 4. イチオシ！！私の愛読書**
オススメの本をPOPにして、お気に入りの場所で紹介してみましょう
- 5. 笑撃！！ピフォーアフター**
昔の写真と同じ構図で撮ってみて、身近な人に紹介してみましょう
- 6. よみがえれ！！私の青春時代**
青春時代の「私にとってのアイドル」をCDやレコード、写真を持ち寄って語り合きましょう



楽しく野外で遊びましょう

- 1. 子ども遊び**
休日の公園でみんなと一緒に子ども遊びをしましょう
- 2. 自然のなかでのんびり**
晴れた日に自然のなかでみんなでゴロゴロしましょう
- 3. 高浜版バーベキュー**
高浜の食材を使って、屋外で調理して食べてみましょう
- 4. ブラ高浜**
高浜をブラブラ歩いて、知らなかった高浜の一面を発見しましょう
- 5. 会話しながらゴミを拾おう！**
まち歩きして出会った地域の人と会話（カンバセーション）を楽しみながら、ゴミ拾いをしましょう
- 6. 秘密基地づくり**
自然の地形と材料を使って自分たちだけのアジトをつくってみましょう



体だけではなく、時にはコミュニケーションでストレス発散して心も健康にしなきゃね。普段じゃできない話やつながり・人脈ができるかも。

普通に「地域活動に参加しよう」って言うても、普通は参加しないよね。「つまみ食いしながらおしゃべりしよう」ならちよっと行ってみたいくなるかも。

お祭りやイベントブースなどで「場」があれば、自分の得意なこと（歌や踊りなど）を披露するくらいならできるかも。同じ趣味を持った人にも出会えることもあるし、高浜の新しい文化が生まれるかもしれないね。自分の得意なコト・好きなコトで、他の人が笑顔になったりするってすごいよね。



自分のウォーキングコースってあるよね。それを紹介するだけならできそう！10人いれば10通りのコースがあるかも。今日はどのコースにしようかなって、歩く楽しみが増えるよね。歩くことで、健康になるし、ひょっとしたら観光コースになるかも。あいさつしながら歩けば防犯効果もあるよね。

単に「あいさつをしよう」って言われても、大人になると恥ずかしくて、みんなにあいさつってなかなか出来ないよね。でも「あいさつの日」があれば、あいさつしやすいかも。

あいさつできる関係ができれば、防犯や防災、近所同士の見守りにもつながっていくよね。



誰にでも好きな歌とかってあるよね。そのCDを持ち寄るくらいならできるよね。

歌は世代関係ないから世代間交流ができるし、好きな歌を思い出して語り合うだけで、その当時のことが分かるし、回想法にもなってるよね。もちろん人と人とのつながりもできるよね。

高浜版バーベキューなら、堅苦しくなくて参加しやすいよね。大人から子どもまで、外国人の方もバーベキューなら自分たちのできることがあるよね。

人が集まれば、つながりができるし、外国人の方が来れば、その時にごみ出しのルールや防災・防犯の話だってできるよね。





資料編

資料編

I. 高浜市地域福祉計画策定委員会 委員名簿

区分	氏名	所属
市民	横井 光義	しあわせづくりワークショップ参加者
	尾関 圭介	しあわせづくりワークショップ参加者
	村瀬 早苗	しあわせづくりワークショップ参加者 (NPO 法人ふれ愛・ぽーと)
	○宮田 克弥	まちづくり協議会サミット座長
学識経験者	◎野口 定久	日本福祉大学教授
社会福祉施設関係者	久村 明弘	葭池デイサービスセンター
	神谷 毅	吉浜さんさん保育園
	木村 博行	チャレンジサポートたかはま (しあわせづくりワークショップ参加者)
社会福祉に関する 活動を行う者	酒井 幸代	民生児童委員協議会主任児童委員
	高桑 雄司	社会福祉協議会副会長

◎ = 委員長、○ = 副委員長

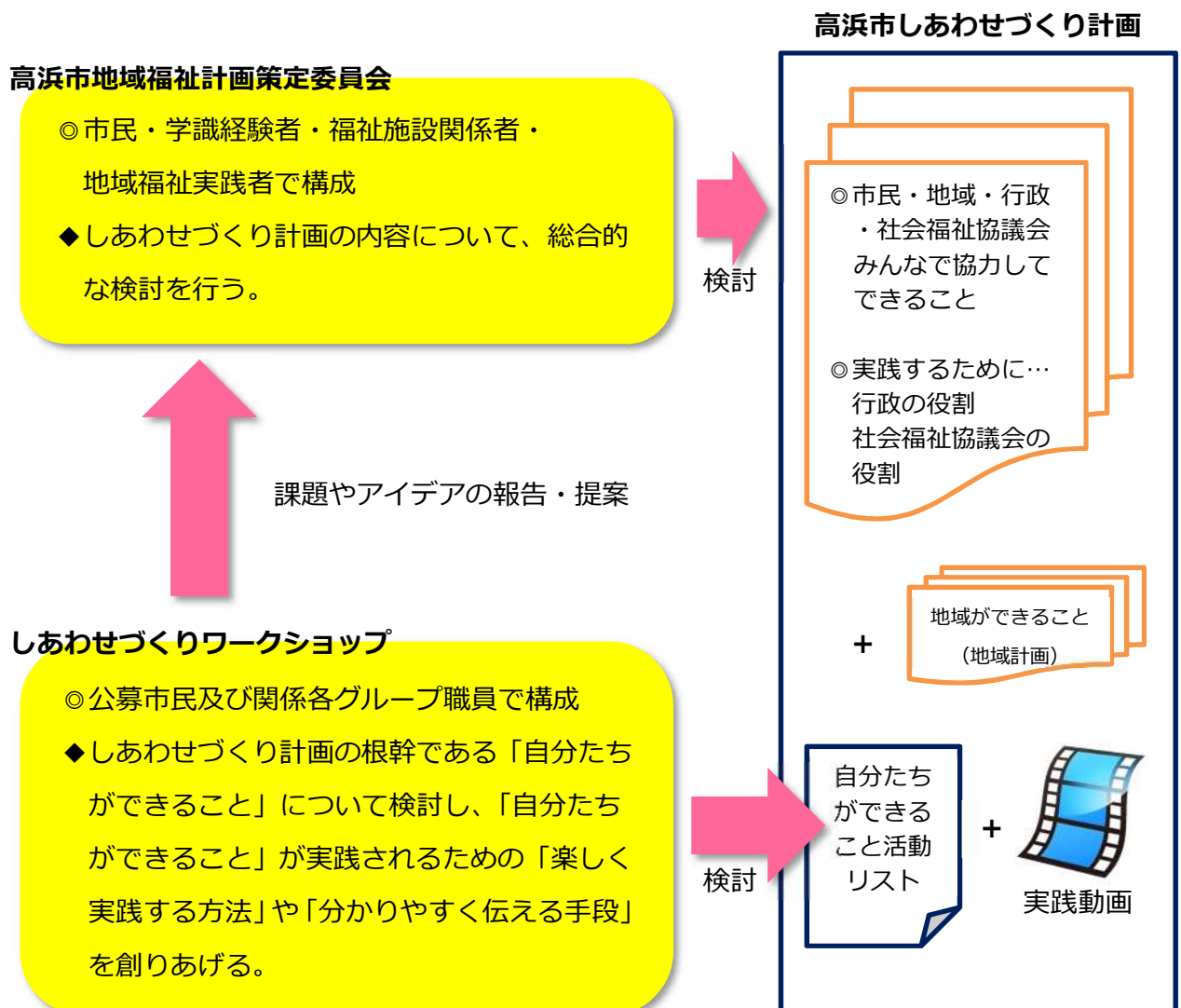


Ⅱ. 計画策定の軌跡

年度	内 容	
平成 26 年度	<p>平成 26 年度は、市民の皆さんと一緒に計画を策定していくための職員の能力向上研修を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎10月 24日 キックオフ（地域福祉について） ◎11月 12日 第1回（高浜市の魅力と課題） ◎12月 19日 第2回（ヒアリング・テーブルワークのコツ） ◎ 1月 13日 第3回（課題から考える自助・公助・共助） ◎ 2月 15日 しあわせづくりフォーラム（映画上映・吉岡市長× 山崎亮 トークセッション・グループワーク） ◎ 2月 19日 第4回（しあわせのストーリーづくり） 	
平成 27 年	<p style="text-align: center;">地域福祉計画策定委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎10月 21日 <ul style="list-style-type: none"> ・第3次地域福祉計画の概論 ・第3次地域福祉計画の総括 ◎11月 16日 <ul style="list-style-type: none"> ・市民ができることと行政・社協が 応援すること（一緒に取り組むこと）について ◎12月 21日 <ul style="list-style-type: none"> ・第3次地域福祉計画素案について ◎ 2月 10日 <ul style="list-style-type: none"> ・しあわせづくり計画（案）について ・パブリックコメントについて ◎ 3月 25日 <ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの結果について ・しあわせづくり計画最終案について ・しあわせづくり計画の提出 <div data-bbox="331 1682 667 1928" style="text-align: center; margin-top: 10px;"> </div>	<p style="text-align: center;">市民ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎9月 5日 <ul style="list-style-type: none"> レクチャー「高浜市の現状を知る」 ワーク「楽しさを共有しよう」 ◎10月 7日 <ul style="list-style-type: none"> レクチャー「身近にある福祉的なことについて」 ワーク「身近な困りごととできることを 組み合わせよう」 ◎10月 25日 <ul style="list-style-type: none"> レクチャー「発想を変えることについて」 ワーク「自分ができることをもっと面白くて、 必要とされるものに！」 ◎11月 28日 <ul style="list-style-type: none"> レクチャー「事例紹介」 ワーク「実践・活動内容を考えよう！」 ◎12月 13日 <ul style="list-style-type: none"> ワーク1「撮影講義と撮影体験」 ワーク2「活動内容の再整理」 ◎1月 30日 <ul style="list-style-type: none"> 各チーム活動「活動リストの完成」 ◎3月 19日 しあわせづくりフォーラム

Ⅲ. 計画策定の体制

『高浜市しあわせづくり計画』の策定にあたっては、本計画の根幹である、全ての市民が「しあわせ」を感じ、「いつまでも住み続けたい！」と思える高浜市を実現するために、「自分ができること」。その「自分ができること」が多くの市民に実践されるように、「楽しく実践する方法」や「分かりやすく伝える方法」を有志市民及び関係各グループ職員で構成される「しあわせづくりワークショップ」において検討しました。その検討結果及び第2次高浜市地域福祉計画の実施状況や成果・課題の検証を踏まえ、高浜市地域福祉計画策定委員会において、市民・地域・行政・社会福祉協議会みんなで協力してできることや、市民一人ひとりが行動できるよう応援するための行政や社会福祉協議会の役割の検討を行いました。



IV. 高浜市第2次地域福祉計画を振り返って

高浜市第2次地域福祉計画は、「行政・社会福祉協議会評価チーム」による第1次計画の分析・評価を踏まえ、3つのテーマ別意見交換会を設置し、そこからの意見を十分に反映し、地域福祉計画策定委員会において、内容の検討を行い策定しました。

意見交換会では、福祉専門職が「高齢」、「障がい」、「子ども」といった分野別の垣根を越えた計画活動が行われ、また、5つのまちづくり協議会の防犯・防災担当が同じステージに立ち、情報共有や情報交換などを実施しました。

『高浜市しあわせづくり計画』の策定にあたっては、第2次高浜市地域福祉計画の達成状況や成果を反映するため、「重点的に実施するリーディングプラン」の各事業について、まずは各所管グループに高浜市第2次地域福祉計画の実施状況や成果・課題を調査し検証を行いました。

検証結果については、以下のとおりです。

«高浜市第2次地域福祉計画の概要»

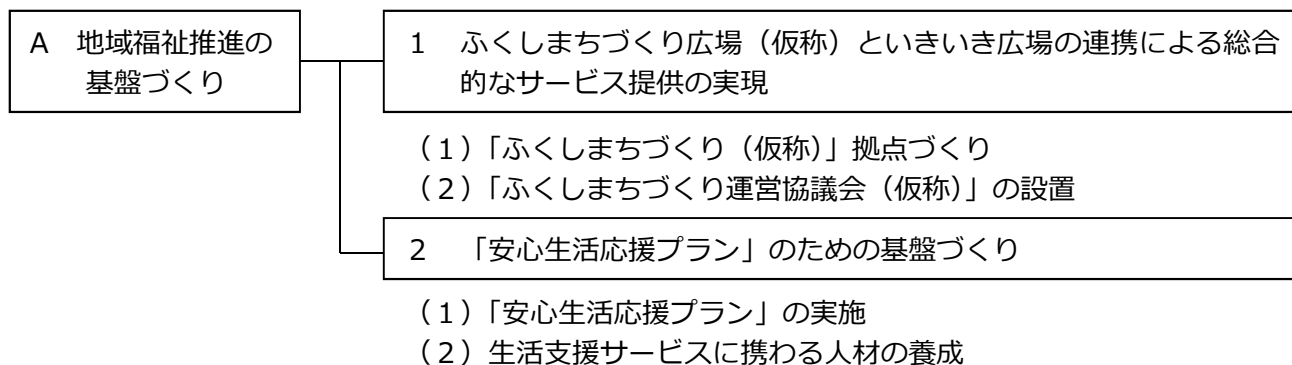
【基本理念】 つながり、支えあい、安心のしくみづくり

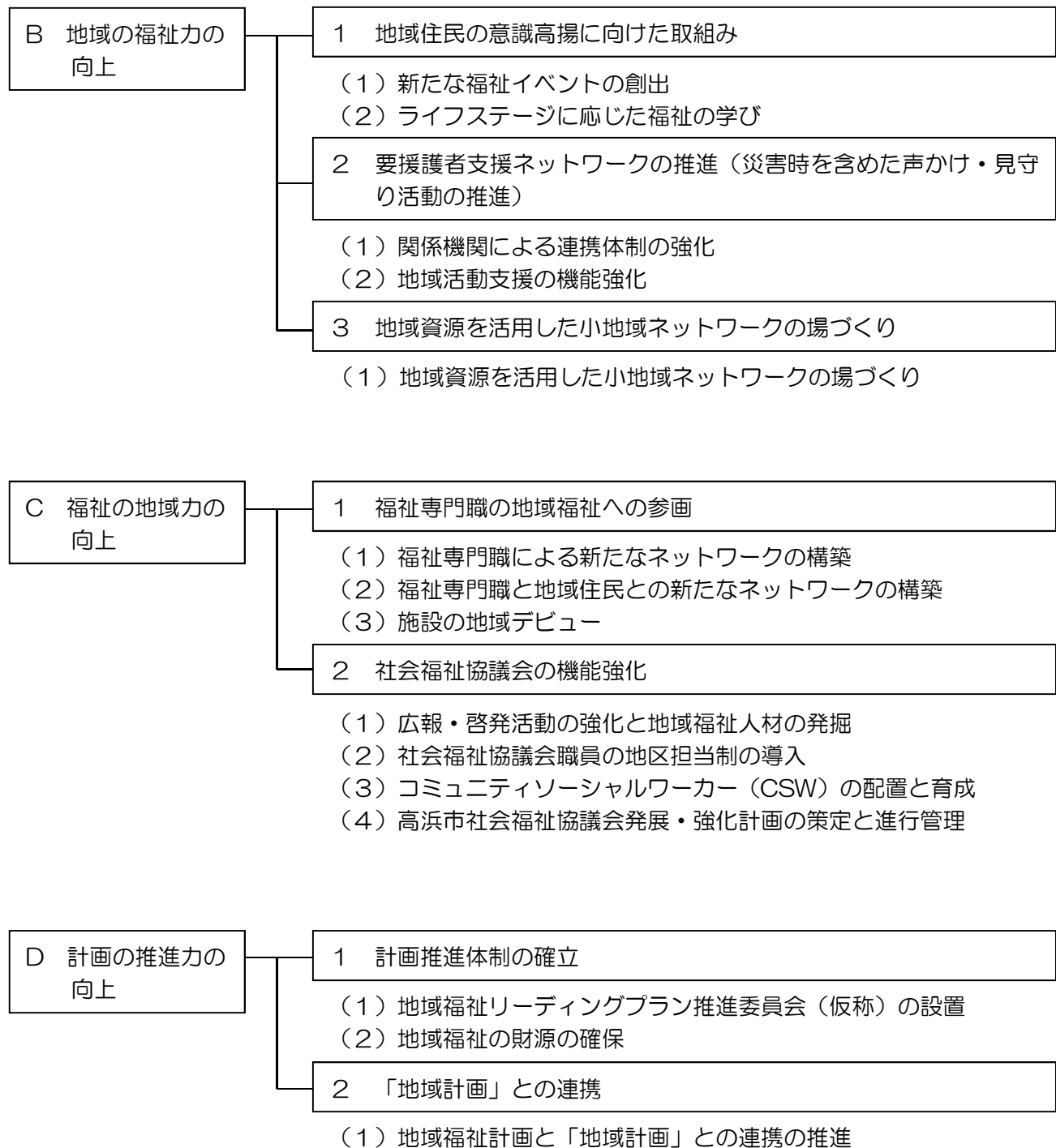
【推進目標】 1. 身近な生活課題への対応（「安心生活応援プラン」の実現）

2. 地域福祉が進むための環境づくり

3. 重層的な地域福祉の展開

【体系】





◀検証結果（総括）▶

A 地域福祉推進の基盤づくり

A-1 ふくしまづくり広場（仮称）といきいき広場の連携による総合的なサービス提供の実現



◎地域福祉センターでの一体的・総合的な人材・交流・情報の取り扱い

いきいき広場3階に地域福祉センターを設置し、市と社会福祉協議会と日本福祉大学高浜事業室（高浜市まちづくり研究センター）が連携して、ボランティア活動から市民活動まで垣根を越えた相談・支援を行うとともに、「生涯現役のまちづくり事業」、「ふらっとカレッジ」や「ざっくばらんなカフェ」の実施などによる人材発掘・育成、交流促進、情報収集・発信を行い、地域福祉活動の活性化に必要な人材・交流・情報を一体的・総合的に取り扱う場づくりを行いました。

◎ボランティアひろばセンターによる人材育成と、情報共有の場づくり

「ボランティアひろばセンター」がボランティア活動支援の中核としての役割を果たせるよう、「いきいき健康マイレージ事業」における福祉ボランティアの発掘・養成、まちづくり協議会や町内会と連携した災害ボランティアコーディネーターの養成など、人材育成の仕組みづくりを行いました。また、ボランティア同士の情報交換や交流の場「ボランティア井戸端会議」の開催、かりや衣浦つながるねっと（衣浦定住自立圏市民活動情報サイト）への団体登録を行うなど、ボランティア情報のネットワーク化を図りました。



◎地域福祉事例検討会の立ち上げと、福祉まるごと相談グループの設置

複合的な問題を抱える家庭の支援方策を考える場として「地域福祉事例検討会」を立ち上げ、福祉専門職や民生委員などの地域住民に参画していただき、インフォーマルサービスや公的サービスといった枠を越えた総合的なサービスのあり方や提供について検討を行いました。この取組みから、のちの「福祉まるごと相談グループ」の設置につながりました。



◎高浜市権利擁護推進センター設置検討会の立ち上げ

市、社会福祉協議会、高浜市まちづくり研究センター、弁護士などの法律職等が連携して「高浜市権利擁護推進センター設置検討会」を立ち上げ、新たな権利擁護体制のしくみづくりを行いました。

A-2 「安心生活応援プラン」のための基盤づくり

◎コミュニティソーシャルワーカーの設置

誰もが地域で安心して暮らし続けられるような地域づくりを実現するため、「安心生活応援プラン事業」の実施を通して、社会福祉協議会にコミュニティソーシャルワーカーを配置し、福祉専門職や各種見守り活動支援団体、地域などさまざまな関係団体と連携することで、要援護者に対するサポート体制の強化を図りました。

◎地域生活支援サポーターの養成

要援護者に対するサポート体制を安定的・継続的に実施していくため、「地域生活支援サポーター」の養成講座を行い、地域の中で声かけ・見守りや支え合いのできる人材を発掘するとともに、活動への支援を行いました。

B 地域の福祉力の向上



B-1 地域住民の意識高揚に向けた取り組み

◎わくわくフェスティバルの開催

障がい等の有無に関わらず、さまざまな世代や立場の地域住民が交流できるイベントとして、これまで実施されてきた「いきいき広場まつり」を、より多くの地域住民を巻き込んだり、日頃取り組んでいるボランティア活動の発表を行うことで各種団体の交流・相互研鑽を図る「わくわくフェスティバル」へと発展させ、より多くの人の福祉に対する意識高揚を図りました。

◎ボッチャの普及

市民会議の地域福祉分科会からの提案により、障がい者や高齢者との効果的なコミュニケーションツールとして新たに取り組み始めた障がい者スポーツ「ボッチャ」。わくわくフェスティバルでの大会や体験会の実施、「出張ボッチャ」による団体等へのPR活動を通して、子どもから高齢者、障がい者も含め、ボッチャを通じた交流の場を創出することができました。また、ボッチャに取り組んでいる各種団体の代表の方を中心に「ボッチャ普及連絡会」が設立され、ボッチャの普及活動を継続して行える体制を構築することができました。

◎New ボランティア人

同じく、市民会議の地域福祉分科会からの提案により、ちょっとした気配りや手助けを行っている人を指す「Newボランティア人」という新たな言葉も生まれ、地域での支え合いの精神や意識を高めることができました。

◎福祉教育の場の地域への拡大

福祉教育の場として、これまで学校で中心的に行ってきた車いす体験や視覚障がい模擬体験などの体験型の学びに加え、ライフステージに応じて、認知症サポーター養成講座などを学校だけでなく、町内会などの地域の会合等でも行い、現場である地域を活用した取り組みを進めました。

B-2 要援護者支援ネットワークの推進(災害時を含めた声かけ・見守り活動の推進)

◎地域包括支援センター職員や保健師の地区担当制の導入

要援護者支援のネットワークを推進するため、地域包括支援センター職員や保健師の小学校区ごとの地区担当制を導入し、これまで進めてきた小学校区ごとに地区を担当する地区民生・児童委員協議会やまちづくり協議会との連携の強化を図りました。

◎見守りネットワーク委員会の立ち上げ

認知症高齢者等の地域における見守り体制を強化するため、「見守りネットワーク委員会」を立ち上げ、防災メール配信システムを活用した行方不明高齢者検索模擬訓練の実施や、「地域でいまできること」をテーマに高齢者安心フォーラムを開催しました。

◎災害時要援護者管理システムの構築

これまで手上げ方式により作成していた要援護者名簿については、より正確な情報を把握し、的確な支援ができるよう、災害時要援護者管理システムの構築を行いました。これにより、要援護者の実態把握による名簿作成とマップ作成ができるようになりました。今後は、避難行動支援における地域と行政の役割等を定める「避難支援プラン全体計画」と要援護者一人ひとりの支援者や避難方法を定める「避難支援プラン個別計画」を作成し、より実効性のある支援体制を築いていきます。

◎防災訓練への子どもの参加

まちづくり協議会や町内会が中心となって実施する防災訓練に、小中学生の子どもたちが参加し、通信機能が遮断した場合の連絡役を子どもたちに担っていただくなど、災害時における子どもたちの役割について認識していただくことができました。



B-3 地域資源を活用した小地域ネットワークの場づくり

◎小地域ネットワーク会議の開催

地域にある施設等の社会資源を活用した身近な範囲でのネットワークを構築するための「小地域ネットワーク会議」を開催し、地域の拠点となる場所を中心に地域の人たちが集い、語り合える仕組みづくりの検討を行いました。

◎青空市の立ち上げ

小地域ネットワーク会議において、買い物弱者への買い物支援の場づくりの必要性が提案されたことを受けて、市内の商店などの協力をいただき、地域の福祉施設において、「青空市」を立ち上げました。買い物弱者への買い物支援とあわせ、多くの地域の方が集う新たな交流の場の拠点としても機能しており、毎週定期的に開催しています。





C 福祉の地域力の向上

C-1 福祉専門職の地域福祉への参画

◎福祉専門職と地域住民との連携による地域での活動参加や講座の実施

保健師や社会福祉協議会職員などが、まちづくり協議会の会議や活動に参加したり、地域の商店や銀行などで、「認知症キャラバンメイト」と連携して「認知症サポーター」の養成講座を行うなど、地域の中で福祉専門職が地域住民と連携しながら、地域福祉を推進する取組みを進めました。

◎福祉施設の一般市民への開放や出前講座の実施

福祉施設においても、高齢者の居場所「健康自生地」に登録して、施設内での活動等に一般市民が参加できるプログラムを実施したり、地域に出向いて「回想法」の出前講座を行ったりするなど、地域住民との交流を深める活動も広がっています。

C-2 社会福祉協議会の機能強化

◎地域活動への参加とコミュニティソーシャルワーカーの設置

地域福祉の推進役である社会福祉協議会では、顔の見える、信頼される職員を育成するため、まちづくり協議会や地域活動に積極的に参加し、地域住民が主体的に行う「支え合い活動」の支援や地域福祉の担い手の発掘などを行いました。こうした地域の中での見守りやサービスをつなげたり、新たなサービスの開発支援を推進していくため、コミュニティソーシャルワーカーを配置しました。

◎高浜市社会福祉協議会発展・強化計画の策定

地域福祉の推進役としての役割を果たすべく、あるべき姿や理念、運営方針等を明確にした「高浜市社会福祉協議会発展・強化計画」を策定しました。

◎新たな機関の運営

組織体制の強化や職員育成につながった結果、社会福祉協議会に権利擁護支援センターや生活困窮者自立相談支援機関の運営を担っていただくこととなりました。

D 計画の推進力の向上



D-1 計画推進体制の確立

◎高浜市の未来を創る市民会議 地域福祉分科会での施策提案

計画の具体的な施策の検討や計画的推進及び進行管理について行う「地域福祉リーディングプラン推進委員会（仮称）」の設置については、総合計画の推進のために市民会議の地域福祉分科会が設置されたため、この地域福祉分科会にその役割を担っていただくこととしました。しかし、具体的な施策の提案にとどまり、計画的推進及び進行管理については、行うことができませんでした。

D-2 「地域計画」との連携

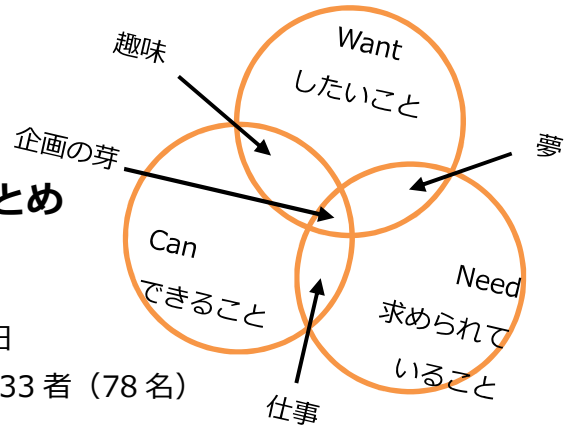
◎第3次計画における課題

地域福祉計画の推進を図るため、地域包括支援センター職員、保健師、社会福祉協議会職員の地区担当制を導入し、地域計画との連携に努めました。しかし、一部の事業では連携することができましたが、十分な連携が図れたとは言えない状況にありましたので、第3次計画での重要な課題であると認識しています。

《第3次計画へ向けた課題》

地域福祉活動に携わる人材の確保が困難とされる中、要介護者に対するサポート体制を安定的・継続的に実施していくため、講座などを実施し、人材の発掘や活動の支援などを行ってきました。しかし、今後より増加すると考えられる認知症高齢者や独居・老々世帯高齢者への支援、核家族化の進展による子育て不安の解消などには、より多くの支える人材が不可欠となってきます。そのため、市民一人ひとりが、お互いを家族のように、時には支えられ、時には支える立場で助け合っていくことが必要です。

また、公費に頼らない地域福祉の財源づくりやまちづくり協議会を主体とする地域活動との相互関連については、十分な検討や連携が図れなかったことから、第3次計画における重要な課題であると考えます。



V. しあわせづくり市民ヒアリングのまとめ

◆ヒアリング概要

- ◎実施期間・・・平成 28 年 4 月 8 日 ～ 7 月 3 日
- ◎ヒアリング実施者・・・行政、個人、団体など 33 者（78 名）

○伝統文化が残っているまち

高浜市は三州瓦の生産地、吉浜人形が伝統産業として現在にも受け継がれている。最近では B 級グルメの「とりめし」が有名になり、市内各所でさまざまなとりめしを食べることができる。

→産業として事業規模が縮小し、伝統文化の後継者が少なくなっている問題が顕在化している。そんな中で、新しい商品、イベントなどを生み出そうとしている。

○福祉の先進地域

これまで国のモデル事業へ積極的に参加した経緯があり、三河高浜駅に直結している「いきいき広場」には、市のすべての福祉関連セクション、社協等が入っており総合相談窓口として機能している。また、5つの小学校区単位にまちづくり協議会が設立され、それぞれの地域の特色を踏まえた活動を地域内の他活動団体と連携しながら展開している。

→国の事業を市から民間事業者へ委託する形態や市が企画して実行していたプログラムを民間事業者へ移管しているケースが見られた。市民で活動している人が固定化している課題もある。

○市外からの新しい世帯の増加

高浜市には、仕事などの関係で若い世代の人口の流入が多い。昔から住んでいる住民との関係、町内会への参加などにはあまり関心が高くない傾向がある。

→仕事の関係で 3～4 年で他市へ転出する世帯も多い。そのことが、より地域との関係性の構築を難しくしている。

○市内での交流場所や学習機会の不足

休日は高浜市外の大規模商業施設への買い物、市外の公園に行くことが多い。また、自分の趣味を広げるためにも学ぶ機会が少ないと感じられている。長期的なカリキュラムではなく、色々な分野で少しずつ学べるプログラムがあった方が良い。

→職場、子どものつながりなど、日常的に関わるコミュニティが限定的。団体間交流、同じ悩みを抱える人たちが意見交換する仕組み、場所などが少ない。若い世代の講座や情報発信と関係構築も不足している。

VI. しあわせづくりワークショップからのアイデア・意見



第1回ワークショップ

平成27年9月5日

「楽しさを共有しよう」

◎楽しい×キーワード＝アイデア

楽しい		キーワード		アイデア
◎運動、ランニング、友人とゴルフ・テニス	×	三州瓦	=	瓦を巡るランニングコースづくり
◎マジックショー、会合・宴会	×		=	お祝い事のあった家の瓦屋根の上でマジックショー・ミュージカル
◎カラオケ、お気に入りの曲をステレオで大きく聴く	×		=	瓦で作ったスピーカでカラオケ大会（トロフィーは瓦）
◎みんなでご飯を食べる、チーズ入りチゲ鍋を食べる	×		=	瓦チーズ焼き、瓦をフライパンにする
◎議論	×		=	酒を交えて「瓦」にまつわる議論をする。
◎飲み屋をはじめるための相談・話し合い、同窓会、みんなでワイワイ飲み会、一人で飲み続ける	×		=	瓦バー ・瓦を焼く窯でピザを焼く ・オリジナル食器を焼いてもらえる ・瓦の上で肉を焼く
◎自生地フェスタ、ドライブ、万歩計	×		=	三州瓦めぐりツアー（工場・美術館…）
◎人生ゲーム、携帯アプリゲーム	×		=	瓦産業で成り上がるモバイルゲーム開発、鬼瓦ガチャガチャ
◎妄想、図書館で借りた本を読む、ゴザで昼寝	×		=	Kawara サロン（瓦ベットとゴザで昼寝・読書・妄想…）、瓦風呂
◎草取り、いろんな建物を見る	×		=	草原を瓦ガーデンに（洗車場完備）※サロンの隣に

楽しい	キーワード	アイデア
◎ライブ、キャンプ、釣り、焼肉	×	細工人形フェス！
◎モンスターハンター	×	細工人形キャラ作成
◎Youtube、草取り、飲みに行く、ダンス	×	いらなくなった物で細工人形を作る！ (各店・小学校…)、ダンス→制作過程を Youtube にアップする
◎オセロ、バトミントン、いろんな建物を見る、すごろく、人を見る	×	細工人形すごろく！（人形をすごろくにして、アトラクションでスポーツ、オセロ）
◎マンガ喫茶、昼寝、音楽を聴くこと	×	マンガ等の癒しキャラの細工人形と音楽を聴きながら昼寝スペース
◎イベントでの撮影会、コスプレ、ステージ発表会	×	人が細工人形の衣装を着る
◎自宅コスプレ撮影会、コスプレイベント	×	人形がアニメのコスプレをする
◎日帰りバスツアー、作品鑑賞、カメラ、寺社巡り	×	細工人形の鑑賞、撮影日帰りバスツアー
◎スマホアプリ（ゲーム）	×	細工人形の LINE スタンプを作る（方言・セリフを入れる）
◎スポーツ、いろいろな建物を見る	×	市内ロードレース開催・チェックポイントに細工人形を設置
◎読書	×	細工人形の場面を子どもにも分かりやすいストーリーにする

細工人形

楽しい	
◎写真を撮る（子ども・景色）	×
◎スマホゲーム、ひとり〇〇	×
◎食事、食事会	×
◎いろいろな人に会う・考える、昔話、勉強、中学生とのおしゃべり	×
◎外での読書・仕事、仕事、清掃	×
相撲観戦、スポーツバー	×
◎釣り、ダンス、学芸会、野球	×
◎消防団操法大会、お祭りの手伝い	×

キーワード
おまんこ

アイデア
おまんこフォトコンテスト大会
おまんこ携帯ゲーム（神馬を育てよう）
おまんこ風土（フード）、人参フード、大豆料理、丸い食べ物（馬場が丸い）
馬との会話（コミュニケーション）、おまんこ勉強会（大人→子どもたちへ）
おまんこビジネス
おまんこバー（ライブカメラ）
実況、テーマ曲（馬場で学芸会・ダンス）
グランプリ、ミスターおまんこ、他地区の代表と競う、馬以外でおまんこ

楽しい	
◎余興での芸、BBQ、巻寿司づくり、ぬいぐるみとおしゃべり、料理、一人暮らし、パンづくり、食事会	×
◎パン作りを教えながらみんなで作る、合唱、写真撮影、美術作品についておしゃべり会、健康体操	×
◎いろいろな建物を見る、手芸、ミシンを使ってポーチやバッグづくり、ハンドメイドのイベントへの出店	×
◎旅行、ドライブ、インターシップ、郵便局めぐり、自転車、釣り、銭湯	×

キーワード
ぬいぐるみ

アイデア
カフェ、作家さんの作ったぬいぐるみ
皆が集える場、カルチャーセンターっぽいところ（手芸・エコクラフト・合唱）
とりめしの皿、箸（竹細工）、器、エプロン（スタッフエプロン・作品としても販売できる）、店内で販売（エコクラフトや手芸の作品）
みんなにとりめしを食べに来てもらう + 温泉があるといい（温泉を掘る）※レッツ高浜もいい！

楽しい	キーワード	アイデア
◎おにぎり	とりめし	とりめしおにぎりを開発・販売をいろいろなところでしてほしい
◎通勤時の読書、映画見放題、映画、プロジェクターでTVや映画を見る		とりめし付き映画会の開催（タカハマ物語）
◎線香花火、毎回違う焼酎を買う、公園で本やマンガを読む、プラモデル、パズル、買ったことがない物をコンビニで買う		とりめしを食べながら、自分の趣味を紹介して、みんなで楽しむ
◎音楽鑑賞、高齢者のためのお楽しみ会、みんなでカラオケ、混声合唱団で歌う		とりめしの唄をみんなで作って歌う、高齢者の方にも楽しんでもらう
◎一品持ち帰り宴会、魚の食べ比べ、料理を作る、1人男の料理		みんなでとりめしに合うおかずを持ち寄り弁当を作ってピクニック
◎1日1万歩を目標である九、家族全員で集まり楽しむ、子ども会のボウリング会、カメラ、サイクリング、ポッチャ&グランドゴルフ、人間ウォッチング		高浜名物のマラソン（マラソンの途中で高浜名物が食べられる。もしくは食材をもらって行って料理を作る）



第2回ワークショップ

平成 27 年 10 月 7 日

「身近な困りごととできること

を組み合わせる」

困りごと	×	自分ができること
◎習い事をしたい、させたい。しかし情報がない	×	○英語で簡単な観光案内ができる
	×	○陸上競技をやっている
	×	○夜にジョギングをしている
	×	○アイドルのダンスができる
◎アパートだと近所付き合いがない	×	○友達を集めることができる
◎1歳未満の子供の育児の手伝い		○平日に自由時間がある
◎子育て中の人困っている時に助けてくれる人が少ない		○SGKでお年寄りとのふれあい、会話等ができる
◎多世代が交わる場所がない	×	○BBQインストラクター資格を持っている
◎友達をつくる場所が少ない		○魚釣りができる
◎市内に遊べる場が少ない		○少し料理ができる
◎市内で同世代の若者と出会うことが少ない		○キャラ弁作れます。料理好きです
◎ゴミ出しのルールが守られていなく、ゴミステーションが汚く困っている	×	○掃除することができる
◎近隣との接点がなく、会話もできずに寂しい		○下校時の見守りができる
◎高浜市内の情報（おいしいパン屋、おもしろい店など）を知りたい。そういった情報を教えてくれる場所・人がいてほしい	×	○いとこの子どもたちと遊ぶこと
◎道幅の狭い道路が多く、野良猫が増えている		○あいさつができる
◎夜道が暗い（鬼みち～高浜港など）	×	○夜間パトロールをすることができる
◎学校から家までの道が暗い		
◎地域の交流が薄い	×	○あいさつができる
◎ゴミのポイ捨て	×	○ゴミ拾いができる

困りごと	×	自分ができること
<ul style="list-style-type: none"> ◎駅の周りに何も無い ◎空き家が増えている ◎勉強（自習）できるスペースがほとんどない ◎みんなが集まって喋れるところがない ◎遊ぶ所が少ない ◎夜が暗い 		<ul style="list-style-type: none"> ○友達といる時が楽しい ○人とつながりを持ってしていると楽しい ○若者限定イベントができる ○みんなでワイワイする ○空き家を使うこと
<ul style="list-style-type: none"> ◎いろいろな人がいることをもっと知ってほしい。（認知症、障がい者、精神疾患、発達障害、マイノリティ、子供、大人）知らないだけで勝手なイメージを膨らませている 	×	<ul style="list-style-type: none"> ○だまって話しを聞くことができる ○ラジオを聴くのが楽しい ○色んな人を表現すること
<ul style="list-style-type: none"> ◎食費が高い 	×	<ul style="list-style-type: none"> ○野菜づくりができる
<ul style="list-style-type: none"> ◎世代を超えて交わることのできる場が少ない 	×	<ul style="list-style-type: none"> ○皆とコミュニケーションを取るのがとても楽しい ○旅行、アウトドアが好き ○おしゃべりをするのが好き
<ul style="list-style-type: none"> ◎空き家が増えてしまった ◎美味しい煮物を食べる店がない ◎空き巣が減らない 	×	<ul style="list-style-type: none"> ○煮物 1 品持ち寄って集まる会が楽しい ○作品作りが楽しい ○ゲーム大会等を市全体で企画して、市民の和を深めると楽しい ○よさこい等の踊りを手に入れて、町を PR する ○歌を歌うこと
<ul style="list-style-type: none"> ◎閉じこもりがちな高齢者の外出支援（男性が多い） ◎学生が集まってワイワイできる場所が少ない ◎歩いて行ける範囲内に、気軽に一人で呑みに行ける店が少ない ◎多世代で交流する場所がない。あっても子供のみ、高齢者のみであり、関わりを持っていただけたい ◎おもしろいところがない ◎かわいい空間がない 	×	<ul style="list-style-type: none"> ○たくさんお酒を飲める ○知らない人と一緒に楽しく飲める ○温泉につかって、リフレッシュすると楽しい ○自分の経験を語ること ○子供と遊ぶこと ○おしゃべり（talk）

困りごと	×	自分ができること
◎草が取りきれなくて困っています	×	○草取りができます
◎新しく引っ越してきて周りも新しい方ばかりで、地域のさまざまなことがよくわからない	×	○若者・お年寄り問わずおしゃべりができる ○対話による美術鑑賞のナビゲーション

困りごと	困りごとの背景	自分たちにできること
◎街灯が少ない	◆夜が怖い ◆事件・事故が発生する	○ランニングコースにする ○街灯がない地域コミュニティ
◎教育	◆子どもが生まれ、人間らしい教育で育てたい場所がない	○学生（若者）のサークル活動とコラボ（親子で参加できる）
◎信号が少ない	◆遠回りが必要 ◆交通事故	○交通おじさんのな ○歩行者ゾーンを作る
◎家事ができない	◆一人暮らし	○あいさつから始まるご近所付き合い ○晩ご飯のおかずを1品おすそ分け ○ご近所さんとホームパーティー
◎体調不良になったときに看病してほしい ◎近所に頼れる大人の方がいない	◆知り合いがいない ◆他の地域からやってきた。 ◆一人暮らし	○あいさつから始まる近所付き合い
◎おばあさんを拾う（2回も！） ◎認知症の高齢者が増加する中で、地域で助け合う体制づくりができていない	◆増加し続ける認知症高齢者	○認知症という病気を知り、地域全員がサポーターとして活躍
◎赤ちゃん（生後6ヶ月未満）を預ける場がない。 ◎仕事が少なくなってきた ◎近くに買物できる場所が少ない（徒歩、自転車で行ける距離）	◆健康自生地補助が将来変わる事 ◆“かわら”の仕事の減少	○現役を退いた看護師さんが「サロン」に入り、赤ちゃんを見守る場づくり
◎大きいスーパーがない（特に向山町・論地町）	◆土地が少ない（建物を建てる・土地のみ） ◆高齢者のみ世帯が増加し、車の運転ができない方が多くなっている	○軽トラ市を実施する ○JA高取（産直センター）をすごい盛り上げる、野菜以外のものを置く（古着、古本、フリマなど）



第3回ワークショップ

平成 27 年 10 月 25 日

「自分ができることをもっとおもしろくて、必要とされるものに！」

☆私ができる面白いこと

カテゴリ	ターゲット	私ができる面白いこと
食		<ul style="list-style-type: none"> ○味くらべ、お腹を満たす（新味の開発・ランキング） ○料理を教わりながら、ご飯を食べる ○釣った魚 or 一緒に釣りに行った魚をつまみに酒を飲む
	自分	<ul style="list-style-type: none"> ○たくさん作りすぎた食事を残さず食べる ○みんなが作った食べ物（おかず）をなんでも、美味しそうに食べる
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ○友人を誘って、地域住民が食事を通して交流できる ○高浜とりめし王決定戦（一般の市民なら誰でもエントリー可） ○自宅を開放し、食を通じて地域の人たち（若者、子ども、高齢者）が交流できる場にする→地域の課題の共有、つながり作り
学び	高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の方と一緒に食事、色んなことを教えてもらい、そのお礼に力仕事を手伝う ○地域のお年寄りのおもしろ話を郷土食を食べながら聞く会をはじめ ○高齢者の家へ伺い、簡単な料理を作り一緒にお酒を飲む
健康		<ul style="list-style-type: none"> ○物語・説明文・エッセイの中に出てくる食べ物の紹介や作れる人に作ってもらえるよう頼む ○イラストを描いて、カードをつくり、プレゼントする
	子ども	<ul style="list-style-type: none"> ○勉強を教える。子どもだけじゃなくても、自分の知っていることを教える。食べる、スポーツ、とにかく楽しむ！
	1人暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ○一人暮らしウォーキング（運動）一緒に飲む
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ○高浜で面白い屋根（瓦）が使われているランニングマップ（散歩）
子育て	子ども	<ul style="list-style-type: none"> ○近所の小さな子たちに、楽しく身体を動かすことを教える！（遊び感覚で） ○放課後、一緒に勉強したり、夕食を食べたりする（学童保育の延長の的）
	父親	<ul style="list-style-type: none"> ○子育てに不安な父親に助言できる
交流		<ul style="list-style-type: none"> ○絵本を読むことを通して幅広いコミュニケーションの場を作りだしていく。演劇を楽しむこと。
	子ども	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が下の世代（小学生？）にダンスを教える→習い事の一環に
	高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ○観光だけでなく旅行のプランニング

カテゴリ	ターゲット	私ができる面白いこと
交流	地域	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の人だけでなく、高浜以外の人にも参加してもらえ⇒うまくいけば観光業につながる ○スカイプで世界の人とつながる（地元の良い所、好きな料理、普段していること（勉強や遊び）） ○楽器演奏をたくさんの人とする ○「書道」から、「まちなか展覧会」なるものを開催。道路を貸し切りにして、書や絵画などを近隣に展示、市や食事可能なブースを設置し、地域交流を図る
	多世代	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもと親、近所の方々と楽しく共通する趣味が出来る ○子どもから大人までいる所で、一緒に参加して色々な人の話を楽しく聞いて遊ぶ ○子ども・高齢者の異世代まつり（企画学生）《こども→遊び、高齢者→知識スキルの継承》 ○地域交流会の開催、モノ作り体験を若い人から高齢者まで幅広い層で行う ○ジェネレーションギャップの共有。（中学時代の制服とか憧れのアイドルとか） ○大人がいる場所、子どもがいる場所それぞれの雰囲気があった歌をうたって盛り上げます ○歌を歌うことが好きな仲間（いろんな世代）を集めて、楽しい時間（食事をしながら）、空間（屋外）を創出する
遊び		<ul style="list-style-type: none"> ○要塞や防護壁なんかを作って、フィールドつくって、泥合戦を多チーム制でやる ○銭湯内で東軍、西軍に分かれて戦う「戦闘チャンバラ」
交通支援	地域	○白タク（みんなでみんなの足になる）
	障がい者	○旅行の計画、車の運転
スキル支援		<ul style="list-style-type: none"> ○マッサージをする（感謝される！） ○ほんの少しだけ大きくなる、ほんの少しだけ力になるかも
コーディネート		<ul style="list-style-type: none"> ○困っている人・団体への手伝いをする機会の創出 ○何かと何かをつなげる企画

☆私が身近な人のためにできること

カテゴリ	ターゲット	私ができる面白いこと
食		○広島風おこのみ焼きをつくり、なるべく大人数で飲む
	自分	○つくってくれた人に対して、ごはんをすごくおいしそうに食べる！！ ○食事を残さず食べて、時々後片付けもする
	地域	○おばあちゃんちにご飯を食べに行く ○母親に代わり、夜ご飯を作ってあげる。(ただし、仕事が早く終わった日に限る)
学び		○絵本&小説などを読むこと
	家族	○弟に勉強を教えてあげる！ ○子どもの勉強がちょっとたのしくなるグッズづくり
健康	自分	○健康管理をして元気でいる ○ちゃんと病院に行きます
子育て	家族	○いとこの子どもに逆上がりを教えてあげる！！ ○見守ること。手、口を出し過ぎないで、良い所をのばしてあげる
	子ども	○休みの日に子どもに自転車の乗り方を教える
	父親	○子育て支援。特に新米の父に対して！
	親	○平日休みがメインの仕事なので、小学生や園児などの子どもの送迎やちょっとした買い物
情報発信		○ワークショップなどの話し合いに参加を呼びかける ○歌を歌うことの楽しさを伝えます ○こんな〇〇まるがあるよ！！あるよ！！(〇〇〇はヒト、物、情報、場)
	学生	○学生が高浜市に関われるように巻き込む(情報発信、イベントに連れ出すなど)
	高齢者	○おばあちゃんの絶品料理のレシピをSNSで公開する。アイドル化
交流		○元気なあいさつで周りの人を元気に！ ○地域活動の際に「ありがとうございます」を必ず1回は言うこと ○みんなで集まって、何か楽しいこと(ゲーム、クイズ)とかをして、笑顔をつくること ○誰もが集える場所を提供できます。家、部屋、台所など ○一緒に旅に出よう
	家族	○集まれるときは、家族や友達と食事をして話し相手になる。近況を聞く。 ○普段迷惑かけっぱなしの母親を笑顔にさせる。 ○母と一緒に晩御飯を食べ、様子を見る。話を聞く。外食に行く。 ○1日1回は、家族全員と話す ○祖母に電話する。自分の近況を話す。

カテゴリ	ターゲット	私ができる面白いこと
交流	友だち	○友人たちと面白い、楽しいイベントに参加すること
	高齢者	○お年寄りの世間話にできるだけ付き合う。とりあえずおじいちゃん、おばあちゃんをお茶に誘う ○おばあさんの買い物につきあってあげる。
	多世代	○多世代交流の場を作るため将棋を教える
交通支援	親	○休みの日ぐらい親の足になる（おこづかいありなら）
スキル支援		○マッサージをしてあげる ○家（屋根）についてアドバイスできます
	家族	○祖父に iPad の使い方を教える

Ⅶ. 地域福祉計画策定委員会からのアイデア・意見

カテゴリ	アイデア・意見
交流	○お父さんのネットワークはなかなか無いため、おやじの会を全地域で展開する。活かせる趣味や特技を持っている人も多し、パトロールなどもできる。
	○働き盛りの若い内から地域に出られると良い。
	○コンパクトなまちにも関わらず、イベントがよく重なっているため、整理した方が良い。みんなが気軽に参加でき、市内の人が自分のまちを知ってもらえる楽しいイベントを開催できると良い。
	○お寺のスペースを市民に開放していただき、講座などができると面白い。
	○高齢者に特に力が入っているように思うが、子どもや障がい者、外国人にも目を向けてほしい。そういった人たちとの交流の場があると良い。
	○高齢者、障がい者、子どもなど、みんなが一緒に過ごせ、つながることができる場所があると良い。
人材	○若い世代の福祉に興味のある人が積極的にボランティアできる場があると良い。
	○何か事業を実施するときに、1つの目的だけで進めるのではなく、複数のことを考えて進めると輪が広がって良い。
	○医療、福祉、介護、教育の分野などの専門的な人材を、戦略的に集める考えが必要。
相談	○個人が相談ごとを発信しやすい仕組みが大切。
生活困窮	○“しあわせ”は、“不幸せ”でないことが大切。生活保護世帯を減らす取組みが重要では。
就労	○ワークショップで挙がっている空き家の活用、軽トラ市、地域を盛り上げるフリマなどを、障がい者や生活困窮者などの働く意欲のある方の第一歩として活用できると良い。
	○生活困窮者の自立支援は、相談部分と、就労などの支援・サポートしていくところをつないで、実際に働くことに結びつけるということが重要。
	○障がい者などには、本人は何がしたいかという話を聞く専門職を置くなどの体制づくりが必要。また、内職などから経験し、少しずつ社会との接点を広げていくのも良い。
	○閉じこもっている若者が仕事につけていないということが課題。
障がい	○車いすの人向けの利用可能なトイレの位置などが表記された地図があると良い。
外国人	○外国人の子どもで問題を抱えている子が多い。民生委員など、各種委員などで外国人がいると良い。地域のことで、協力してもらいやすくなる。
	○外国人の親世代はなかなか日本語を話せない人が多いが、子どもは話せる。その子どもたちが大人になったときに、行政とのつなぎ役、地域活動など協力してもらえるように育てられると良い。
空き家	○空き家は活用すると資源になるが、放置すると犯罪の温床につながる。国も助成金を出すようになっているため、ぜひ活用すると良い。
健康	○男性高齢者は閉じこもりがちなが多いが、おしゃべりよりもマーじゃんなどの活動する方が好き。そういった場所が多くできると良い。

認知症	○認知症の方の徘徊が多いため、近所や顔見知りの方の見守りが大切。加えて、買い物の付き添いや支援などもできると良いと思う。
子育て	○子育てのお手伝いについては、一時預かりのシステムや、お母さんのリフレッシュのための講座もある。それを知らずに、助けが欲しいという声があるのであれば、情報が足りていない。
災害	○災害時に要援護者の犠牲者を1人も出してはいけないという想いが大切。それは、町内会や近隣の協力があってこそそのもの。情報が隅々まで行き渡るようにしていかなければいけない。
	○災害時要援護者名簿への登録を同意してもらえない人にも、同意してもらえるよう働きかけていくことが必要。個人情報より人の命が優先されるべき。対象も広めに考えておくべきである。
	○災害時はパニックになっている。平時の時の仕組みが大切。
財源	○地域活動やボランティア活動などに対し、市の予算を充てるのが難しいければ、寄付の仕組みなどを考えた方が良い。
	○ふるさと納税のお返しとして、卵などを毎月送ってくれると嬉しいと思う。

Ⅷ. すでに取り組みられている自分たちのできること（地域活動紹介）



1. 公園遊具の塗装（日本ペイント㈱）
市内企業の日本ペイント株式会社が、老朽化し塗装がとれた公園遊具等を塗装しなおしています。



2. 芝生プロジェクト（㈱シンカ）
市内企業の株式会社シンカが、「園児に芝生を!」と中央保育園の園庭に芝生を植えました。



3. 環境学習（㈱高浜電工）
市内企業の株式会社 高浜電工が、小学生に太陽光発電と LED の課外授業の学習をしています。



4. 地域交流会（港小学区おやじの会）
港小学区おやじの会では、港・高浜小学区の児童、保育園・幼稚園児を地域で見守り育てる事業を行っています。



5. ランチ（NPO 法人ハッピーパワー）
NPO 法人ハッピーパワーは、児童生徒及びとりわけ障がいを持つ児童生徒に係る問題の改善や解決に取り組んでいます。



6. 幼児教育（吉浜まち協）
吉浜まち協では、幼児を持つヤングママに遊びながら学べる幼児教育の場を提供しています。



7. 伝統文化の継承（吉浜まち協）
まち協をはじめ、各種団体が地域の伝統文化を次世代に残していこうと活動をしています。



8. 青空市（南部まち協）
南部まち協では、高齢者等への買い物支援及び顔の見えるコミュニケーションの場として、日曜日に「青空市」を開催。



9. 登校見守り
まち協・町内会・PTAなどの各種団体の皆さまが、子どもたちの安全・安心のため、登下校の見守りを行っています。



10. 消防団
消防団は地域の防災リーダーとして、災害時の対応など、地域の安心・安全を守るために日夜活動をしています。



11. 一斉清掃
毎年2回、みんなでまちをきれいにするため、一斉清掃を行っています。



12. 青パト
街頭犯罪・住宅侵入盗などの犯罪を未然に防ぐため、まち協・町内会などの各種団体が青パトで地域をパトロール。



13. 徒歩パトロール

まち協・町内会などの各種団体では、青パトだけでなく、歩いて、時にはごみも拾いながらパトロールをしています。



14. ベンチ寄贈（榊豊田自動織機）

株式会社 豊田自動織機が、森林保全及び地域社会貢献のため、間伐材を加工した木製ベンチを寄贈しました。



15. 健康自生地フェスタ

健康自生地がスーパー銭湯レッツ高浜に集結し、フェスタを行いました。



16. 資源ごみ分別収集（町内会）

ゴミの減少、再利用、再資源化のため、町内会が当番制で、分別拠点での立ち番をしています。



17. 子育て支援（NPO 法人ふれ愛・ポート）

NPO 法人ふれ愛・ポートは、親子に対する子育て支援やいちごプラザの運営をしています。



18. 環境保全（神楽山ホテル会）

神楽山ホテル会では、ホテルの飼育・鑑賞など、次世代に渡せる自然環境の創出に取り組んでいます。



19. 海の環境保全（渡し場かもめ会）

渡し場かもめ会は、海の環境保全や美しい海の再現、渡し場まつりによる地域文化の次世代継承に取り組んでいます。



20. 食育（吉浜まち協）

食を通じた次世代育成が、まち協や市内のNPO（だいちきつず）によって行われています。



21. 出前事業（中部電力㈱）

中部電力 株式会社が、小学生に地球温暖化や発電方法についての出前授業を実施しています。



22. 花壇整備（沢渡スミレ会）

沢渡スミレ会では、沢渡町町内会が主体となり公園花壇の整備、美化活動を行っています。



23. 湯山公園へのサッカーゴール寄贈

平成 27 年 8 月には、市民の方から、湯山公園にサッカー練習用のゴールとネットが寄贈されました。



24. 学習支援《寺子屋》（高浜まち協）

夏休み期間中に、夏休みの宿題の分からないところを教える寺子屋を、地域の方が先生になって実施しています。



25. おまんと

地下足袋姿の若者が、人馬一体となって駆け抜けていく勇壮な祭り「おまんと」には地域の人が多く関わっています。



26. 田植え体験（とりめし学会）

総合学習の一環で実施する田植え体験のほか、とりめし学会も田植え体験を実施しました。



27. とうもろこし狩り体験（飛翔の会）

飛翔の会では、とうもろこし狩り体験のほかにも、テント村やどろんご祭りなど多くの交流イベントを行っています。



28. 稗田川の草刈り

稗田川沿いをきれいに維持しようと、まち協やNPO団体の方が草刈りをしています。



29. 災害応急手当（赤十字奉仕団）

災害時に備え、赤十字奉仕団の方々は、子どもたちに応急手当の仕方を教えています。



30. クルージング体験（NPOポート高浜）

NPOポート高浜は、高浜の海の環境や安全を守り海の魅力を伝える活動を展開しています。



31. 食育に対する寄付

食育活動に使ってくればと、市内の企業から寄付をいただきました。



32. 自然体験（高取まち協）

まち協をはじめとした様々な団体が、子どもたちに自然の大切さを伝えようと、イベントなどの体験活動をしています。



33. まごのて（高浜高校）

高浜高校では、一日限定のデイサービス「まごのて」を開き、地元への恩返し、知識や技術の実践に取り組んでいます。



34. 防災・防犯運動会（翼まち協）

翼まち協では、防災・防犯訓練や親睦の要素を取り入れた防災・防犯運動会を実施しています。



35. 新庁舎への鬼瓦の寄贈

市内の瓦関連企業から新しい市庁舎に鬼瓦を使ってほしいと、鬼瓦の寄贈がありました。



36. タカハマ物語

映画「たかま物語」制作を通じて、自ら考えて行動し、高浜に愛着を持つ子どもたちの育成をしています。

※ここで紹介している事例は、地域で行われている活動の一部です。

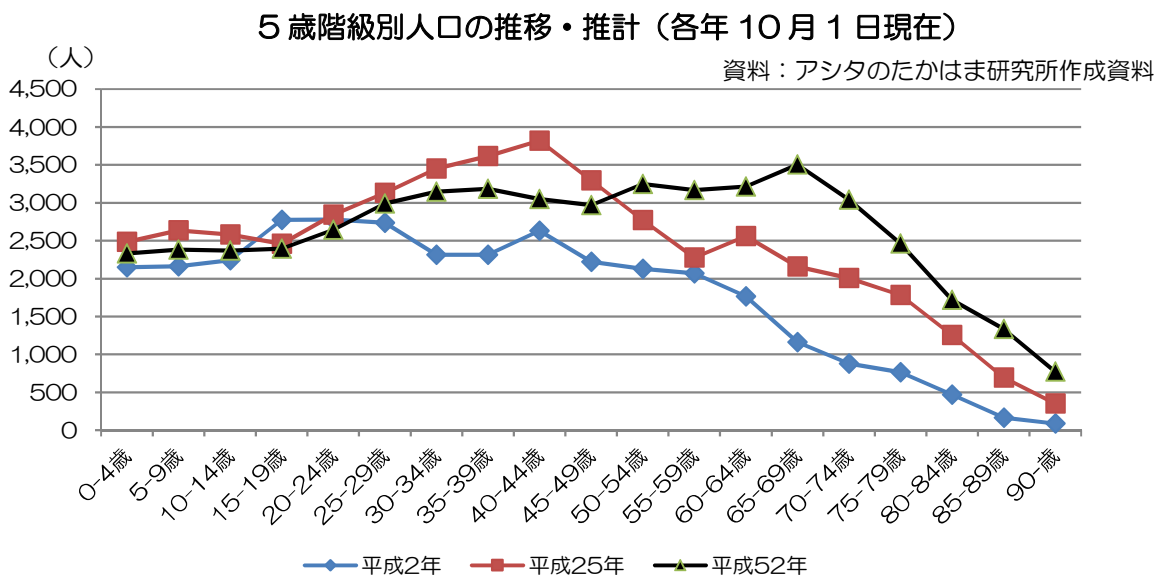
IX. データで見る高浜市

① 高浜市の総人口の推移と将来推計



総人口については、年々増加しており、今後も増加し続けることが予想されます。平成2年に33,823人であった人口は、平成25年では46,165人となり、平成32年では47,911人となる見込みです。

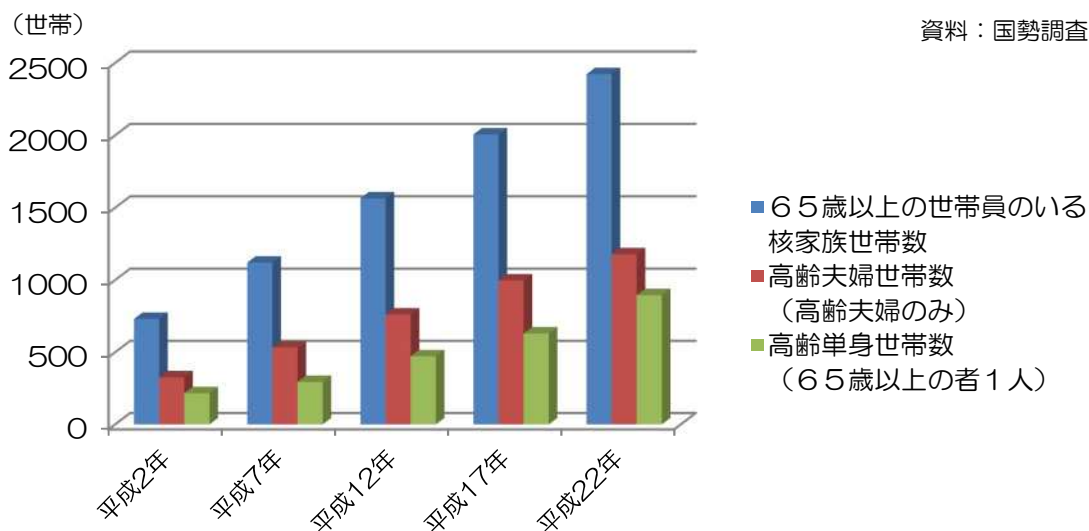
② 高浜市の人口構造の変化



平成2年では、20歳～24歳が最も多かったです。平成25年では40歳～44歳が最も多く、平成52年では65歳～69歳の人口が最も多くなると見込まれます。

③ 高浜市の高齢者世帯の変化

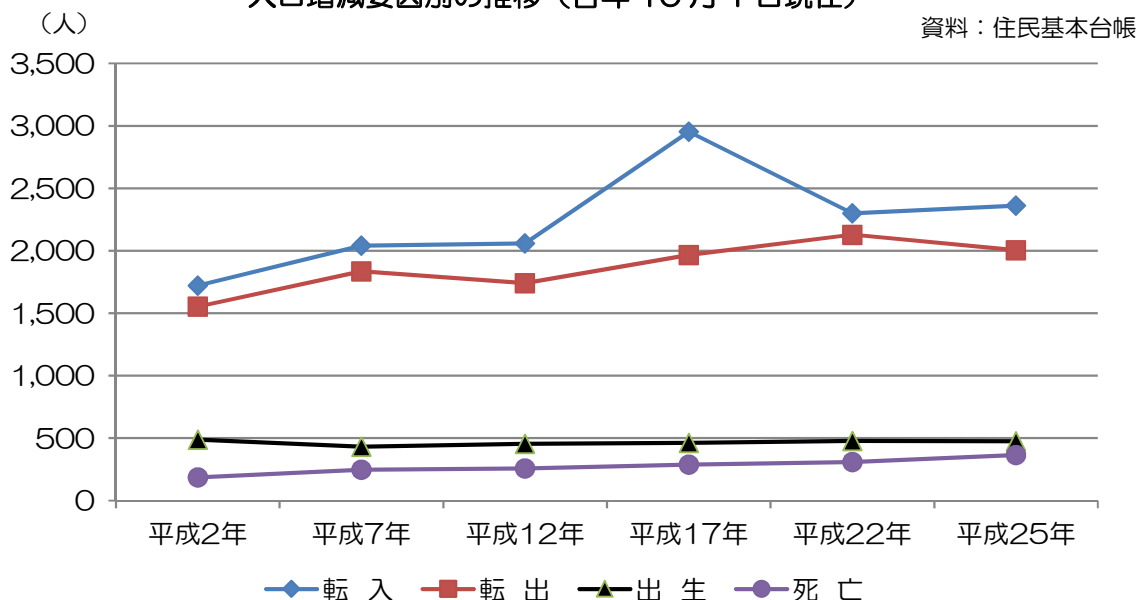
高齢者のいる世帯（3分類）の推移（各年10月1日現在）



高齢者のいる世帯数については、平成2年から平成22年の間（20年）でそれぞれ、3倍～4倍に増加しており、今後も人口構造の変化から推測すると、さらに増加していくことが予測されます。

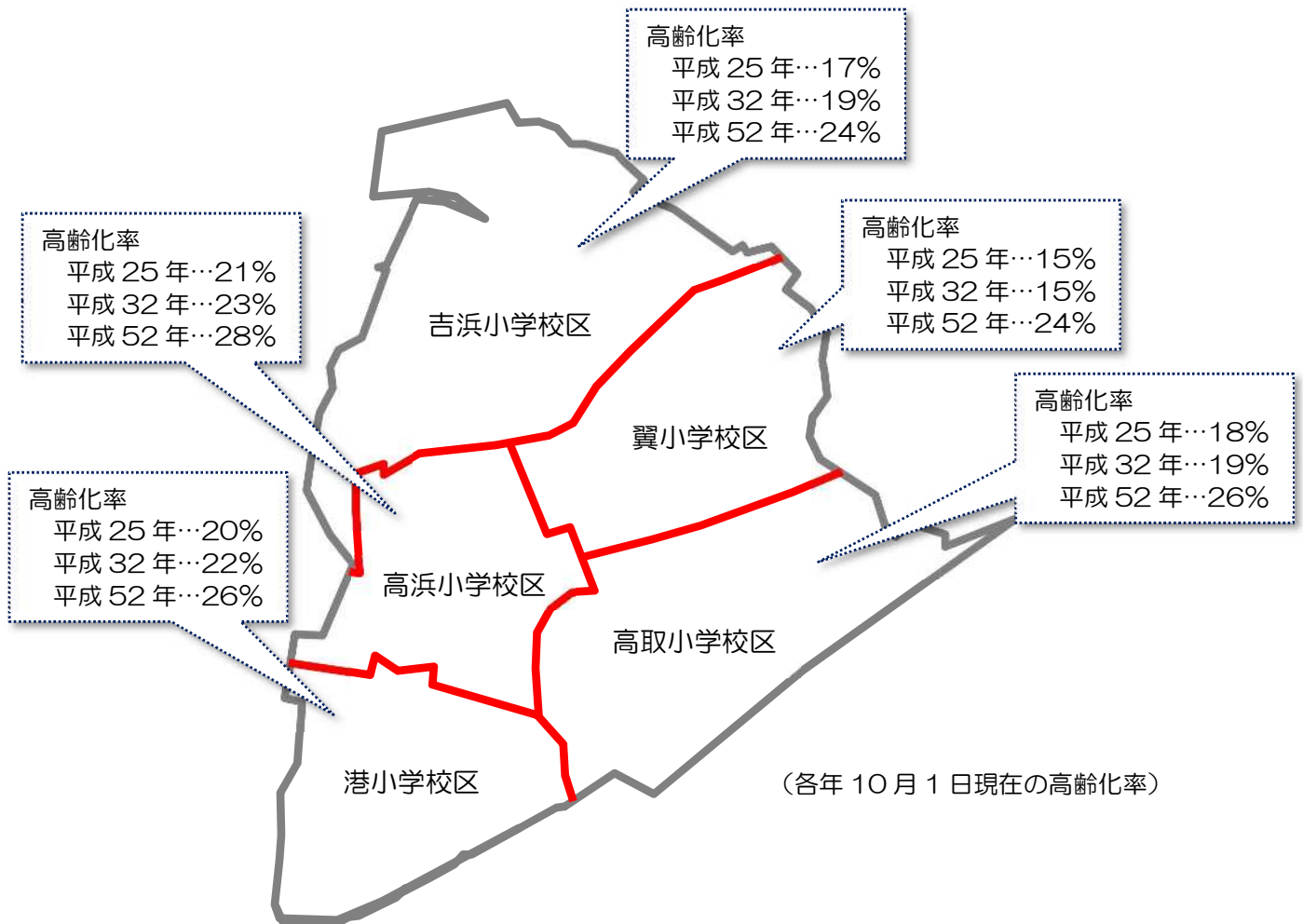
④ 高浜市の人口増減要因の状況

人口増減要因別の推移（各年10月1日現在）



転入・転出による社会増については、転入が転出を上回り続けている一方で、自然増となる出生・死亡については、年々その差がなくなってきました。

⑤ 小学校区ごとの高齢化率



小学校区別の高齢化率をみると、高浜小学校区・港小学校区で、すでに高齢化率 20% を超えています。しかしながら、他の 3 小学校区では平成 32 年時点においても 10% 台をキープすることが見込まれる。

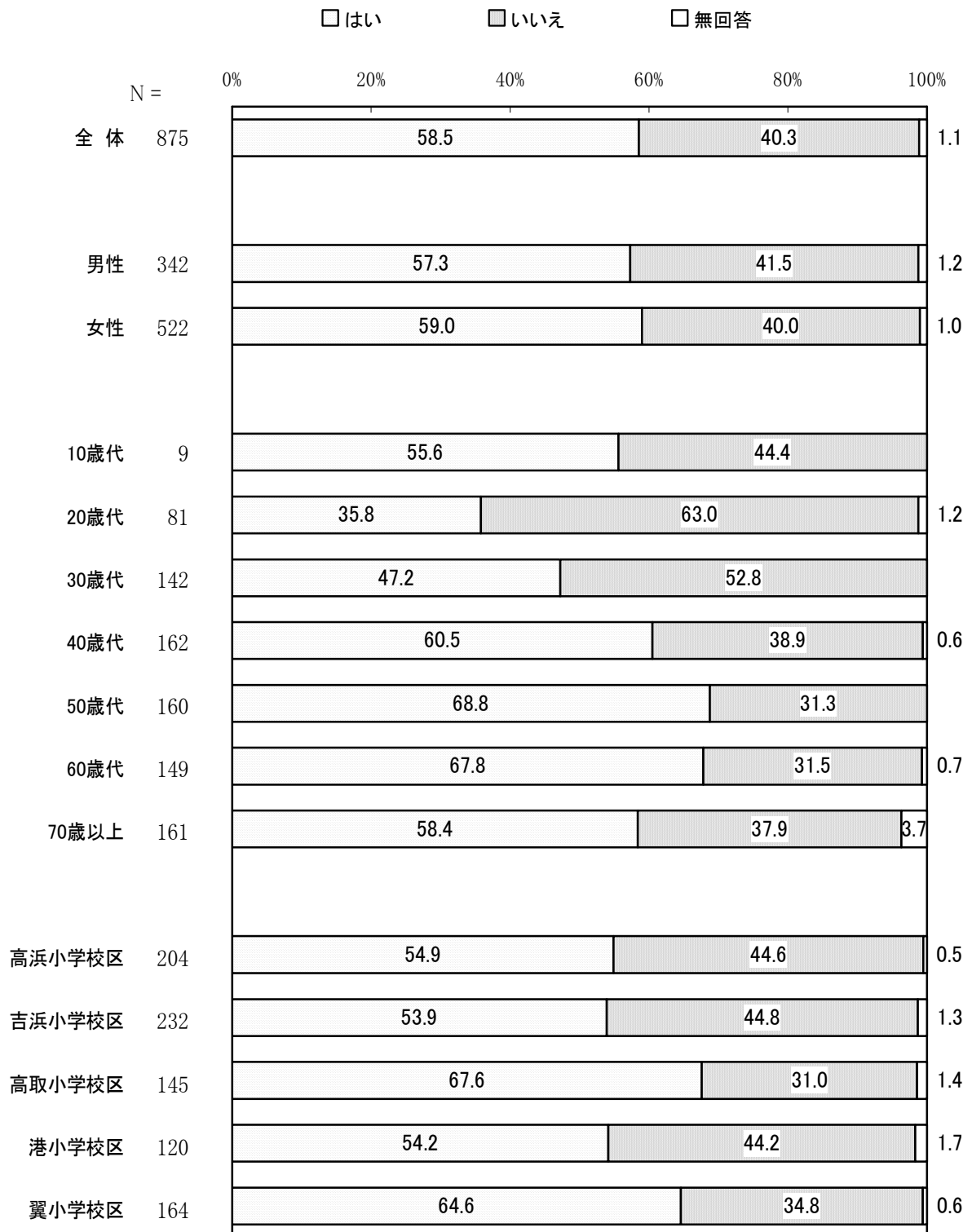


⑥ 地域活動への参加状況

「あなたは、地域活動に参加したことがありますか？」



(平成 27 年度 市民意識調査より)



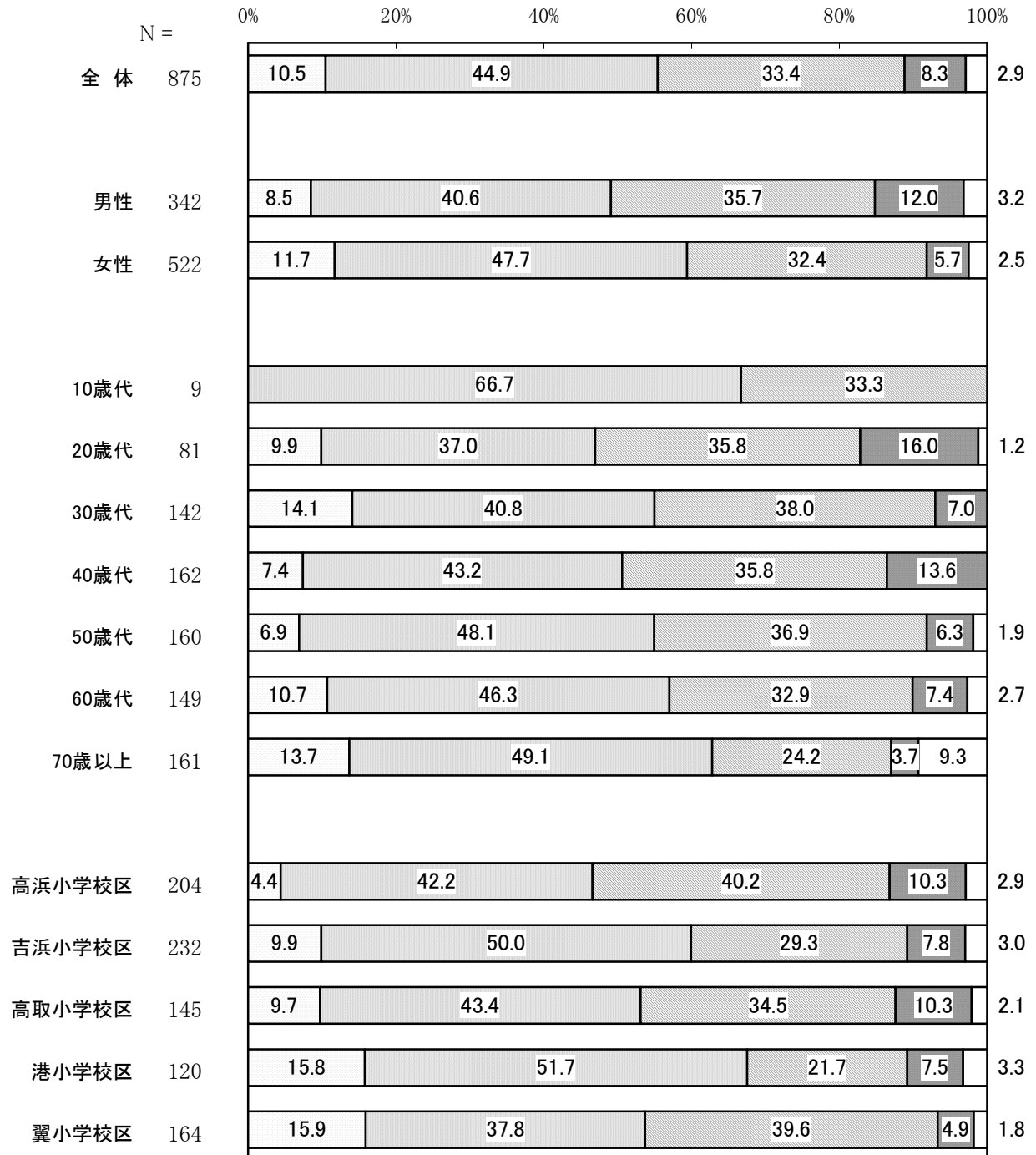


⑦ 子育て・子育てへの支援状況

「高浜市は地域ぐるみで、子育て・子育てを支えているまちだと思いますか？」

(平成 27 年度 市民意識調査より)

- そう思う
 どちらかといえばそう思う
 どちらかといえばそう思わない
 そう思わない
 無回答

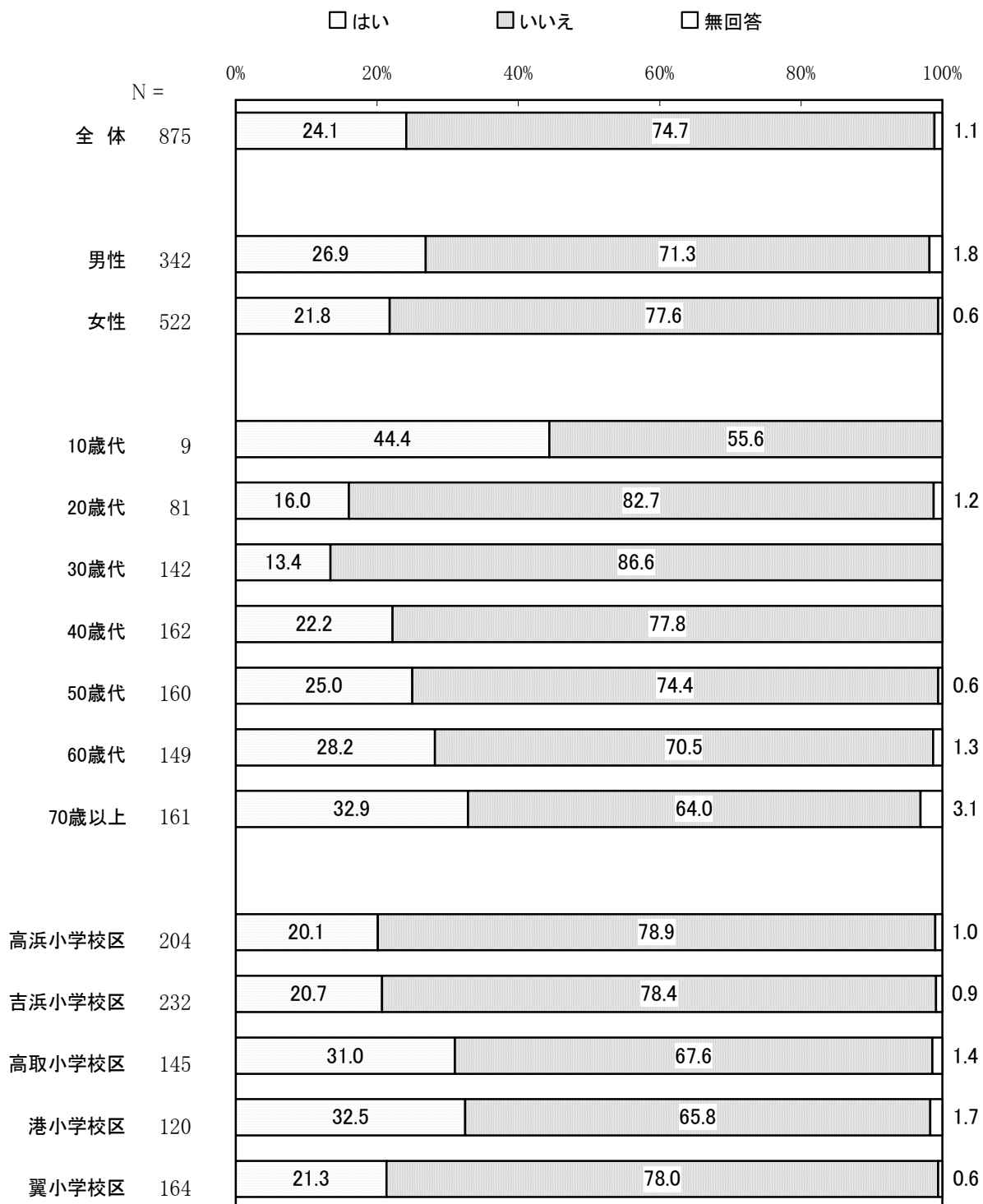


⑧ 都市空間整備への参加状況

「あなたは、公園・緑地づくりや、街路樹の手入れ、

憩いの場となる川づくり・海辺づくりに参加したことがありますか？」

(平成27年度 市民意識調査より)

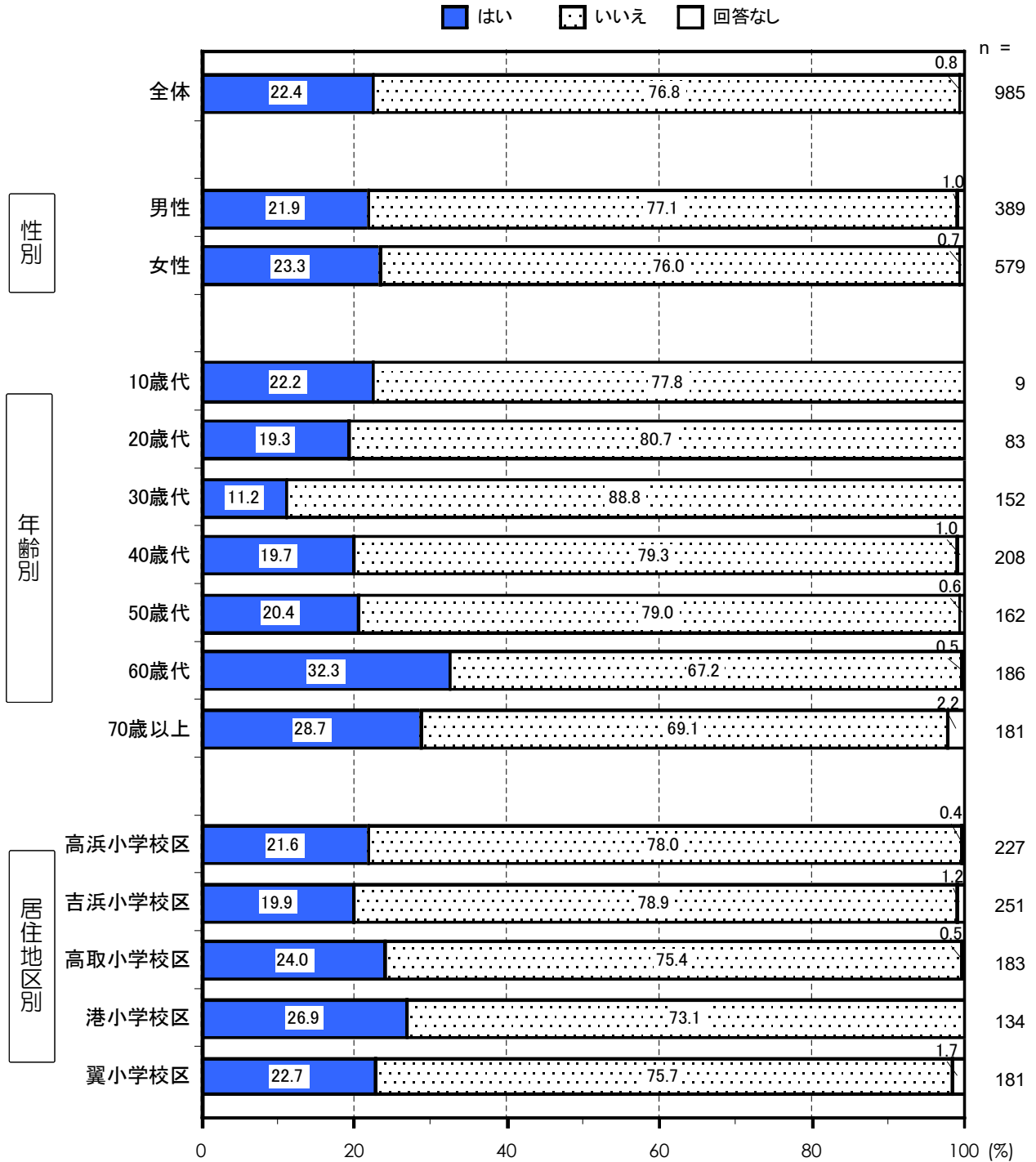




⑨ 高齢者や障がい者への支援状況

「あなたは、地域で高齢者や障がい者の見守りや生活の手助けをしていますか？」

(平成26年度 市民意識調査より)

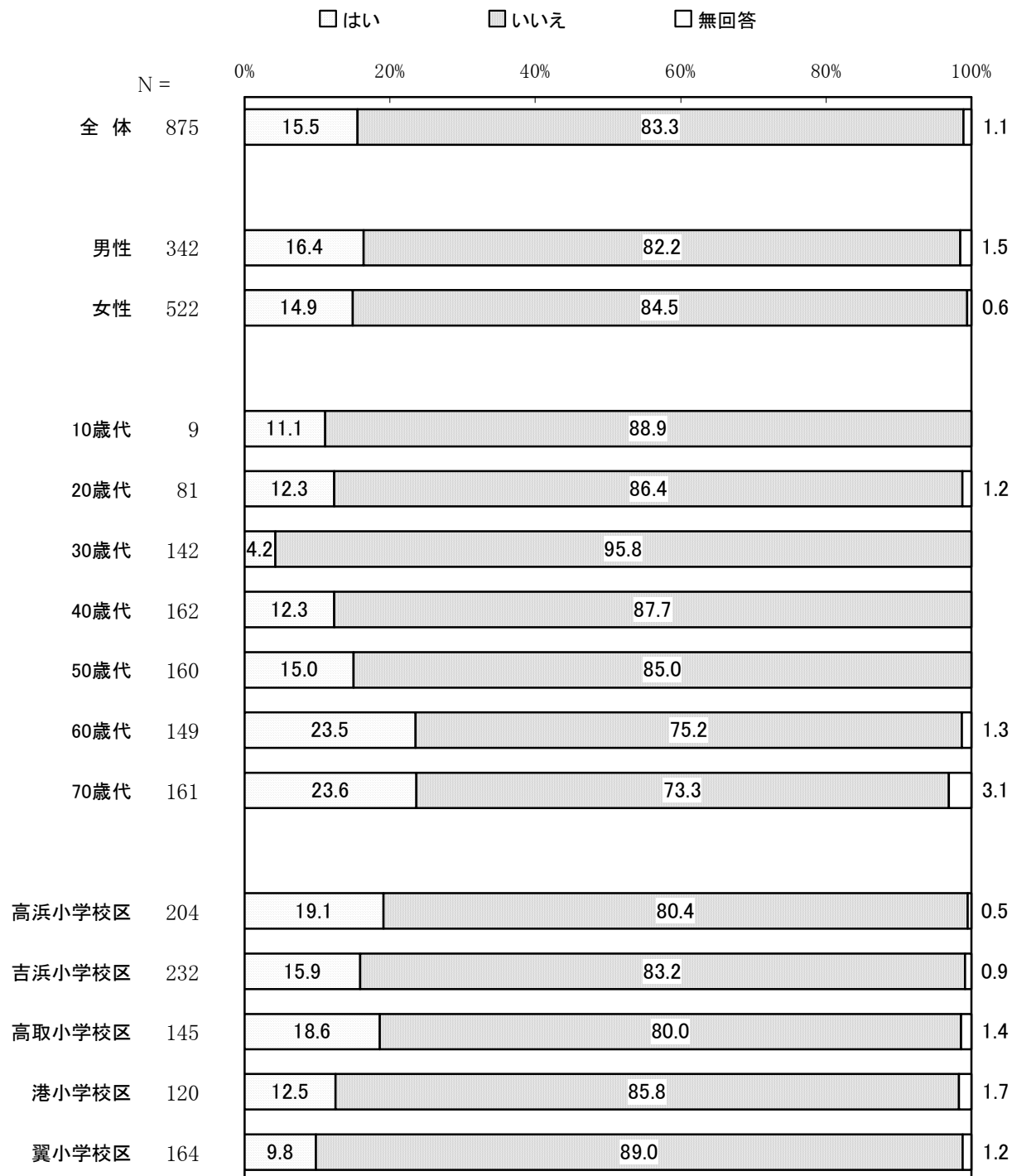




⑩ 地域福祉に関するボランティア活動への参加状況

「あなたは、地域福祉に関するボランティア活動（困りごとを抱える人への見守りや生活の手助け、災害時要援護者支援など）に参加したことがありますか？」

（平成27年度 市民意識調査より）

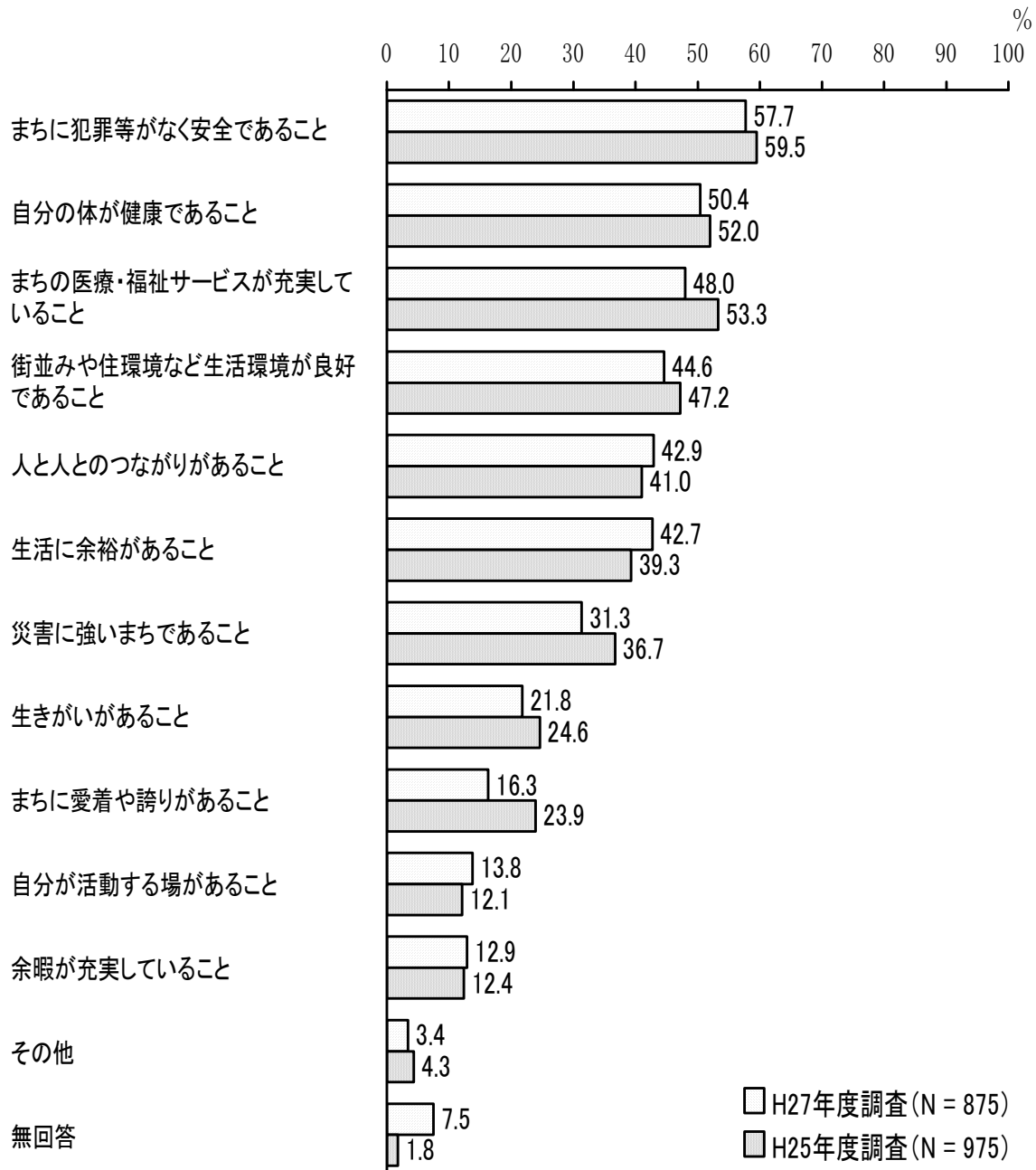


⑪ 高浜市に暮らす日常の「心地よさ」について



「あなたが、高浜市に暮らす日常の「心地よさ」を実感するために、重要視するものは何ですか？」

(平成27年度 市民意識調査より)



単位：％

区分	有効回答数(件)	人と人とのつながりがあること	自分が活動する場があること	余暇が充実していること	生きがいがあること	まちに愛着や誇りがあること	生活に余裕があること	街並みや住環境など生活環境が良好であること	災害に強いまちであること	まちに犯罪等がなく安全であること	まちの医療・福祉サービスが充実していること	自分の体が健康であること	その他	無回答	
全体	875	42.9	13.8	12.9	21.8	16.3	42.7	44.6	31.3	57.7	48.0	50.4	2.3	7.5	
性別	男性	342	37.1	10.8	15.5	26.3	17.0	46.2	43.9	26.9	57.9	42.1	51.2	4.7	7.0
	女性	522	47.3	16.1	11.5	19.3	16.3	41.4	45.6	34.7	59.6	52.5	50.6	2.3	6.5
年齢別	10歳代	9	33.3		11.1	22.2	55.6	33.3	55.6		66.7	55.6	55.6		
	20歳代	81	35.8	11.1	22.2	14.8	16.0	46.9	63.0	42.0	71.6	38.3	30.9	4.9	6.2
	30歳代	142	37.3	7.0	12.0	14.1	23.2	45.8	55.6	35.9	69.6	50.7	36.6	4.2	6.6
	40歳代	162	35.8	11.1	11.7	18.5	11.1	51.2	49.4	38.3	67.9	48.8	48.1	3.7	6.8
	50歳代	160	46.9	13.8	10.0	26.9	13.1	49.4	49.4	33.8	65.0	43.1	58.6	2.3	1.6
	60歳代	149	55.0	18.8	14.8	28.9	12.8	50.3	33.6	25.5	51.7	51.0	67.1	2.3	4.0
	70歳以上	161	46.0	20.5	12.4	25.5	21.1	18.6	27.3	21.1	31.1	53.4	51.6	2.3	17.4
居住地区別	高浜小学校区	204	44.1	11.3	11.8	18.6	16.7	45.6	46.6	28.4	55.4	45.1	45.1	2.3	7.8
	吉浜小学校区	232	42.2	13.8	15.9	20.3	15.5	44.8	45.3	32.8	62.1	47.4	54.3	1.9	6.2
	高取小学校区	145	37.2	20.0	14.5	26.2	16.6	42.8	42.8	29.7	55.2	46.9	53.8	2.3	7.6
	港小学校区	120	47.5	13.3	10.8	27.5	23.3	44.2	35.0	30.8	57.5	57.5	57.5	4.2	4.2
	畷小学校区	164	46.3	12.8	11.0	21.3	12.8	37.2	52.4	36.0	59.8	48.2	44.5	1.7	6.1

「高浜市に暮らす日常の「心地よさ」を実感するために、重要視するもの」として最も高いのは、「まちに犯罪等がなく安全であること」(57.7%)で、次いで、「自分の体が健康であること」(50.4%)、「まちの医療・福祉サービスが充実していること」(48.0%)といった医療・福祉や健康に関する事項が重要視されています。また、「街並みや住環境など生活環境が良好であること」(44.6%)や「人と人とのつながりがあること」(42.9%)、「生活に余裕があること」(42.7%)についても比較的高くなっています。

《年齢別》

- ◎20歳代・30歳代…「まちに犯罪等がなく安全であること」や「街並みや住環境など生活環境が良好であること」など、住環境といった日々の暮らしやすさを重要視。
- ◎40歳代…「生活に余裕があること」の割合が高くなるなど、生活のゆとりを重要視するという傾向。
- ◎50歳代以上…「自分の体が健康であること」や「まちの医療・福祉サービスが充実していること」、「人と人とのつながりがあること」といった心身の充実ということを重要視。

高浜市第3次地域福祉計画

～高浜市しあわせづくり計画～

平成28年度（2016）～平成33年度（2021）

- 発行 高浜市
〒444-1334
愛知県高浜市春日町五丁目165番地
いきいき広場内
電話 0566-52-9873
ファクス 0566-52-7918
ホームページ
<http://www.city.takahama.lg.jp/>

- 発行年月 平成28年3月